

令和 7 年度
鎌倉市高齢者保健福祉計画策定に向けた
介護事業所等アンケート調査
調査結果報告書

令和 8 年 3 月
鎌 倉 市

目 次

I. 調査概要.....	1
1 調査対象者.....	1
2 実施方法.....	1
3 回収状況.....	1
4 集計結果の見方.....	1
II. 在宅生活改善調査	2
(1) 国の示す設問	2
(2) 市独自の設問.....	12
III. 居所変更実態調査	13
(1) 国の示す設問	13
(2) 市独自の設問.....	23
IV. 介護人材実態調査	25
(1) 国の示す設問	25
(2) 市独自の設問.....	31

I. 調査概要

1 調査対象者

調査区分	調査対象者	調査対象者数
在宅生活改善調査	居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所 看護小規模多機能居宅介護事業所、地域包括支援センター	74 事業所
居所変更実態調査	介護施設等	68 事業所
介護人材実態調査	介護事業所、介護施設等	174 事業所

※令和7年11月1日時点

2 実施方法

- 調査地域：鎌倉市全域
- 調査形式：アンケート調査
- 調査方法：メール送信・市ホームページへの掲載・e-kanagawa 電子申請システムでの回収
- 調査期間：令和7年12月3日（水）から令和8年2月6日（金）まで

3 回収状況

調査区分	配布数	回収数	回収率
在宅生活改善調査	74 事業所	29 事業所	39.2%
居所変更実態調査	68 事業所	15 事業所	22.1%
介護人材実態調査	174 事業所	53 事業所	30.5%
合計	316 事業所	97 事業所	30.7%

4 集計結果の見方

- 図（グラフ）の中で使用されているアルファベットnは、その設問に対する回答者数をあらわす。
- 回答の比率（すべて百分率（%）で表示）は、その設問の回答者数を基数（件数）として算出している。したがって、複数回答の設問の場合、すべての比率を合計すると100%を超える場合がある。また、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
- 回答者の属性別（サービス種別）の回答状況を示す表（クロス集計）を掲載した。

濃いグレーの塗りつぶし：属性別にみて、市全体の数値と比べて10ポイント以上高い数値の項目については濃いグレーで塗りつぶし、白抜き文字にしている。

薄いグレーの塗りつぶし：属性別にみて、市全体の数値と比べて5ポイント以上高い数値の項目については、薄いグレーで塗りつぶして特記している。

太字・下線付き文字：選択肢の中で、第1位の項目については太字・下線付き文字にしている。

Ⅱ. 在宅生活改善調査

(1) 国の示す設問

ver.2.0

在宅生活改善調査 集計結果

2026/03/04

神奈川県鎌倉市

発送事業所数：74件

回収事業所数：29件

回収率：39.2%

(注1) 不正確な回答や無回答等がある場合、正確な集計結果となっていない可能性があります。エクセルファイルに入力したデータを良くご確認ください。
(注2) グラフのレイアウト等を変更する場合は、エクセルファイル上のグラフを修正の上、このファイルに貼り直してください。
(注3) 構成比を示す表は、セルの赤色が濃いほど100%に近いことを示しています。

1

【在宅生活改善調査】

調査の目的

- ・在宅生活改善調査では、「過去1年間」の、①自宅等から居場所を変更した利用者の行先別人数や②自宅等において死亡した利用者の人数、また、現在自宅等にお住まいの方で、「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」の、①人数や②生活の維持が難しくなっている理由、③生活の改善のために必要な支援・サービス等を把握します。
- ・そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じ、住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討し、介護保険事業計画に反映していくことを目的としています。

調査の概要

- ・アンケートは、居宅介護支援事業所のケアマネジャーの方にご回答いただきます。各ケアマネジャーは担当する利用者について、上記の「現在のサービス利用では、生活の維持が難しくなっている方」を抽出し、その概要を回答します。
- ・それぞれのケアマネジャーが判断する、「その方の生活改善に必要な支援・サービス」が「地域に不足する支援・サービス」である、という考え方が基礎にあります。
- ・本調査の集計では、「特養待機者」「その他施設等の待機者」「在宅サービス待機者」という言葉を使用していますが、これは特養のみでなく、その他のサービスの待機者についても同じように把握し、整備の必要性を検討するためのものです。

注目すべきポイント

- ・過去1年間で、自宅等から居所を変更した人（住み慣れた住まいで暮らすことができなくなった人）は、どの程度いるか？
- ・現在、生活の維持が難しくなっている人は、どのような人で、どの程度いるか？（継続的に調査し、その人数を減らすことはできないか）
- ・生活の維持が難しくなっている理由、生活改善に必要な支援・サービスは何か？（サービス提供体制の構築方針の検討）

※ 特に生活の維持が難しくなっている理由や、必要な支援・サービスについては、アンケート調査の結果のみでなく、調査結果をもとに関係者間での議論を通じて検討することが重要です。

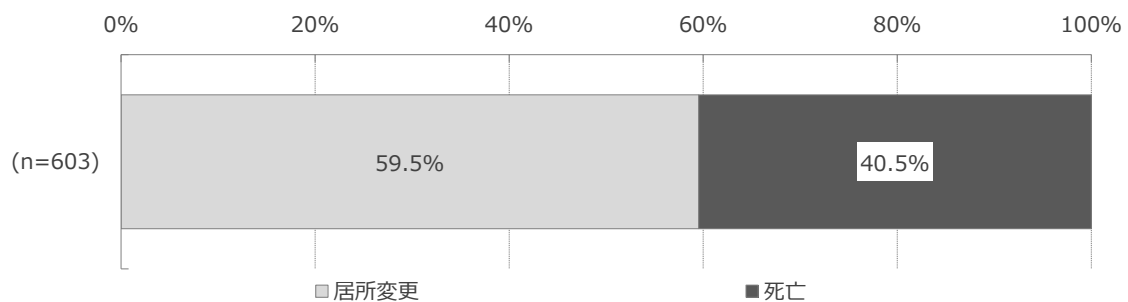
2

過去1年間の実績

3

過去1年間の実績

過去1年間の居所変更と自宅等における死亡の割合



鎌倉市全体で、過去1年間に
自宅等から居所を変更した利用者数



粗推計

953人

回答実数

359人

鎌倉市全体で、過去1年間に
自宅等で死亡した利用者数



648人

244人

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
(注2) 「粗推計」は、居所を変更した利用者数や自宅等で死亡した利用者数に、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

4

過去1年間の実績

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の行先別の人数

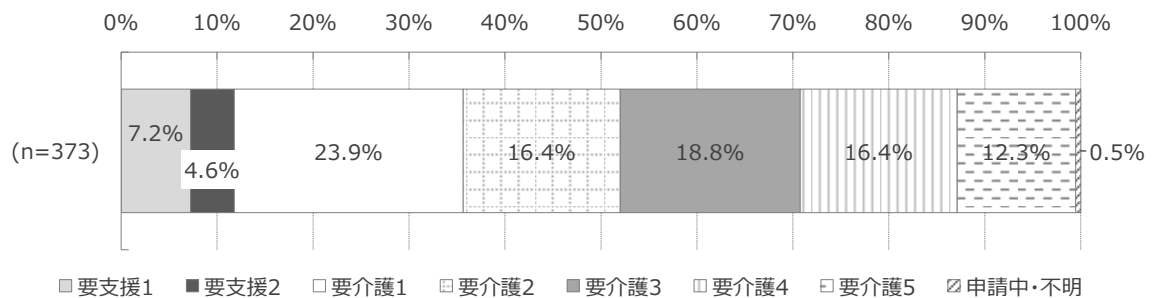
行先	市区町村内	市区町村外	合計
兄弟・子ども・親戚等の家	2人 0.6%	6人 1.7%	8人 2.2%
住宅型有料老人ホーム	25人 7.0%	40人 11.1%	65人 18.1%
軽費老人ホーム	1人 0.3%	0人 0.0%	1人 0.3%
サービス付き高齢者向け住宅	7人 1.9%	18人 5.0%	25人 7.0%
グループホーム	20人 5.6%	2人 0.6%	22人 6.1%
特定施設	25人 7.0%	26人 7.2%	51人 14.2%
地域密着型特定施設	3人 0.8%	0人 0.0%	3人 0.8%
介護老人保健施設	30人 8.4%	11人 3.1%	41人 11.4%
介護医療院	4人 1.1%	0人 0.0%	4人 1.1%
特別養護老人ホーム	45人 12.5%	6人 1.7%	51人 14.2%
地域密着型特別養護老人ホーム	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
病院・診療所	57人 15.9%	11人 3.1%	68人 18.9%
その他	10人 2.8%	7人 1.9%	17人 4.7%
行先を把握していない			3人 0.8%
合計	229人 63.8%	127人 35.4%	359人 100.0%

(注1) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。
(注2) 表の上段の数値は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

5

過去1年間の実績

過去1年間に自宅等から居場所を変更した利用者の要介護度の内訳



(注) 「自宅等」には、サービス付き高齢者向け住宅・住宅型有料老人ホーム・軽費老人ホームを含めていません。また、死亡した方は集計から除いています。

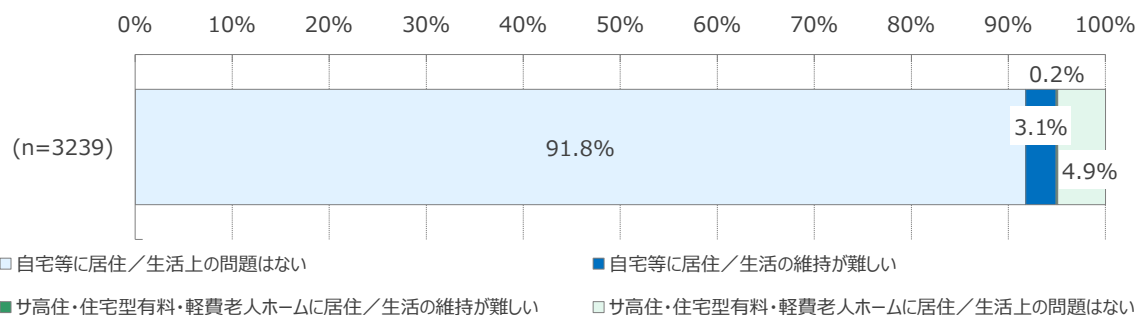
6

現在の利用者の状況

7

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに
居住する利用者のうち、生活の維持が難しくなっている割合

鎌倉市全体で、在宅での生活の維持が
難しくなっている利用者数



合計
(要介護2以下)
(要介護3以上)

3.3%

粗推計

284人
133人
149人

回答実数

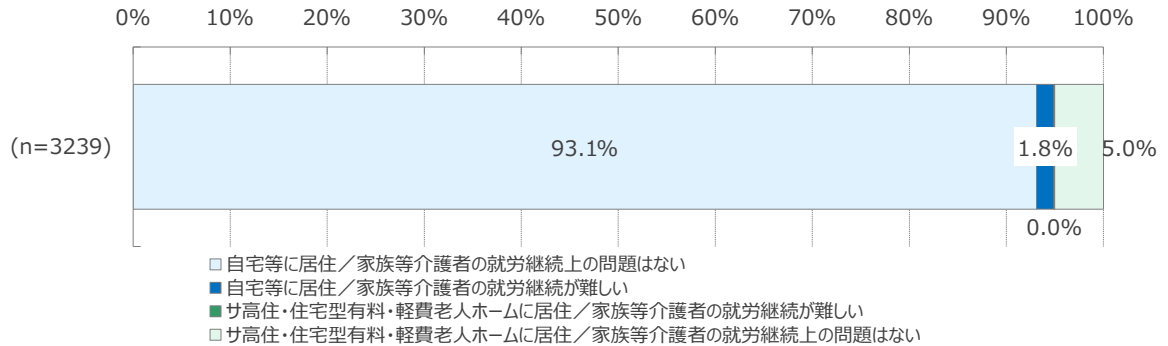
107人
50人
56人

(注)「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

8

現在の利用者の状況

現在、家族等介護者の就労継続が難しくなっている利用者



自宅・サ高住・住宅型有料・軽費老人ホームに居住する
利用者のうち、家族等介護者の就労継続が難しくなっている割合

鎌倉市全体で、在宅での生活の維持が
難しくなっている利用者数

	粗推計	回答実数
合計	159人	60人
(要介護2以下)	77人	29人
(要介護3以上)	80人	30人

(注)「粗推計」は、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。

9

現在の利用者の状況

現在、在宅での生活の維持が難しくなっている利用者の属性

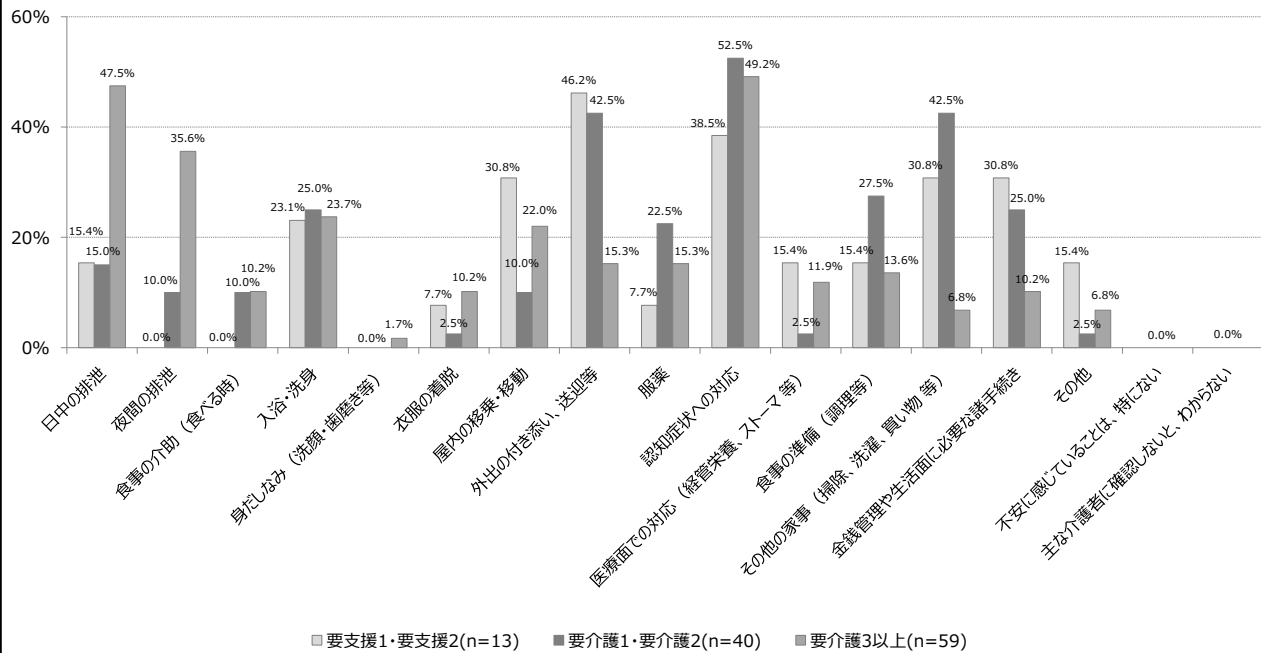
順位	回答実数	粗推計	割合	世帯類型				要介護度	
				独居	夫婦のみ世帯	単身の子どもの同居	その他世帯	介2以下	介3以上
1	27人	72人	21.6%	★				★	
2	20人	53人	16.0%		★				★
3	17人	45人	13.6%			★			★
4	15人	40人	12.0%				★		★
5	14人	37人	11.2%			★		★	
6	10人	27人	8.0%				★	★	
7	9人	24人	7.2%		★			★	
7	9人	24人	7.2%	★					★
上記以外	4人	10人	3.2%						
合計	125人	332人	100.0%						

(注)「粗推計」は、回答数に回収率の逆数を乗じて簡易的に算出しています。また、「上記以外」には、要介護度が「新規申請中」の方や属性が不明な方を含めています。

10

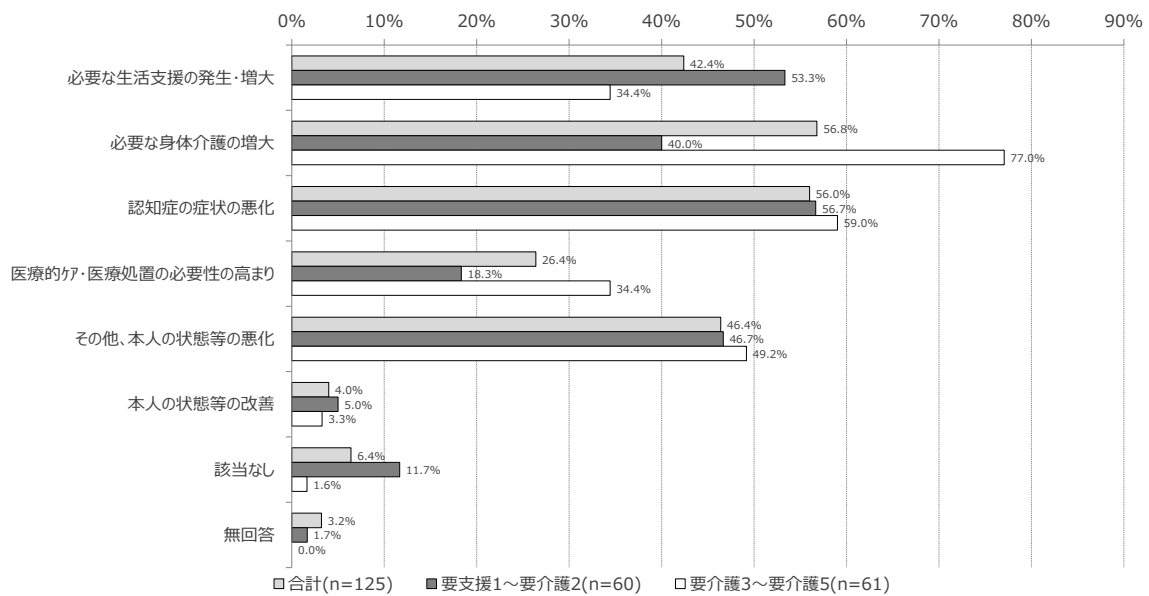
現在の利用者の状況

現在、家族等介護者の負担になっている介護



現在の利用者の状況

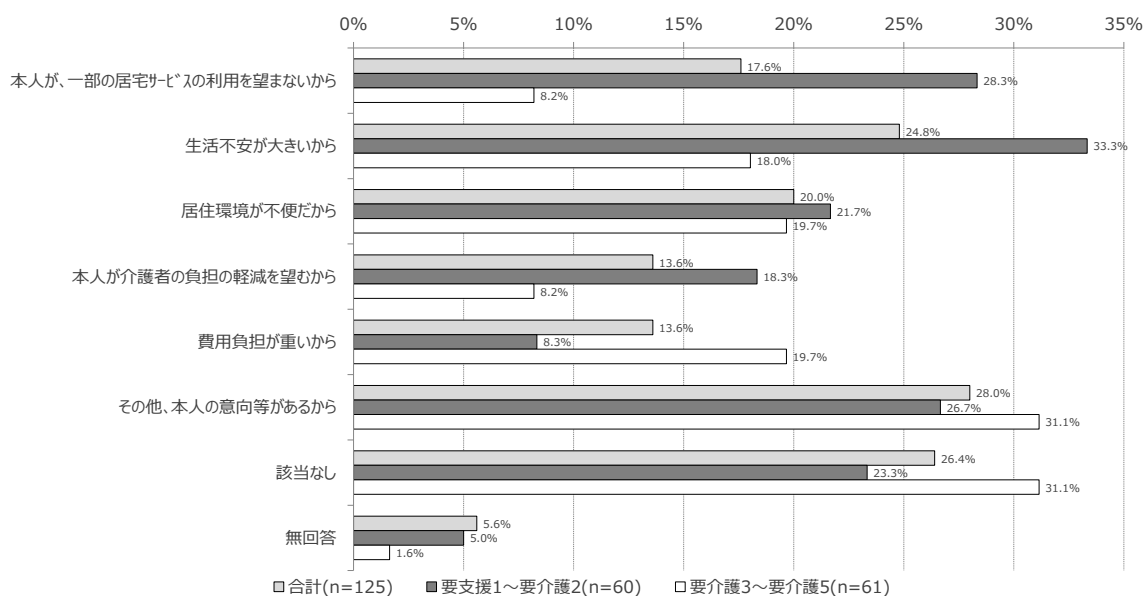
生活の維持が難しくなっている理由
(本人の状態に属する理由、複数回答)



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

現在の利用者の状況

生活の維持が難しくなっている理由
(本人の意向に属する理由、複数回答)

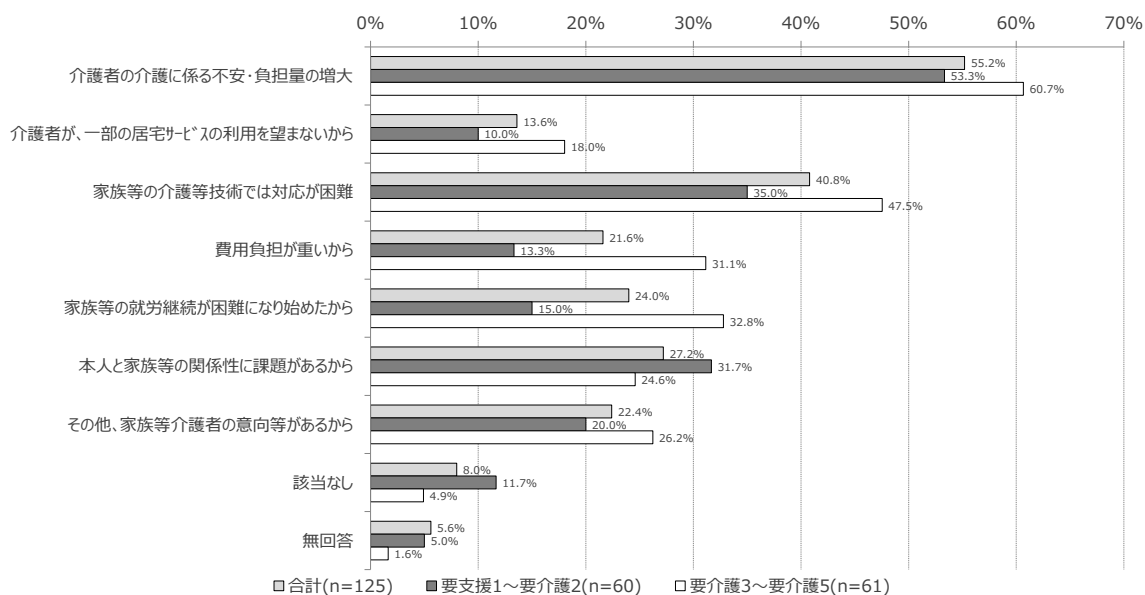


(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

13

現在の利用者の状況

生活の維持が難しくなっている理由
(家族等介護者の意向・負担等に属する理由、複数回答)

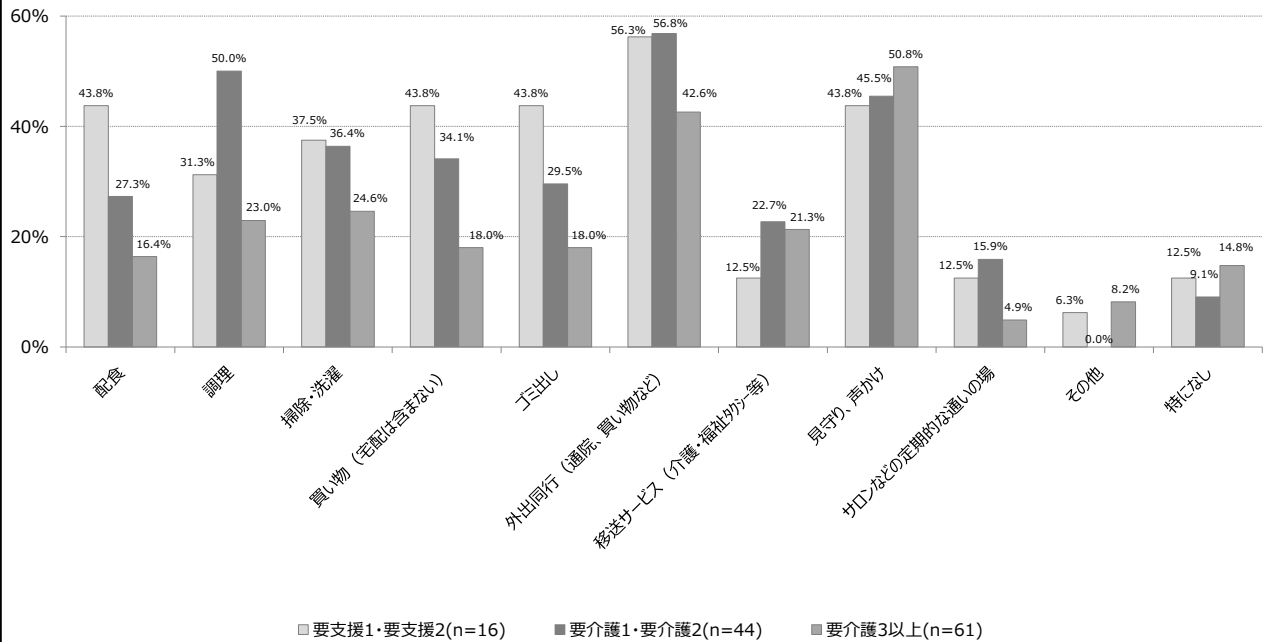


(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

14

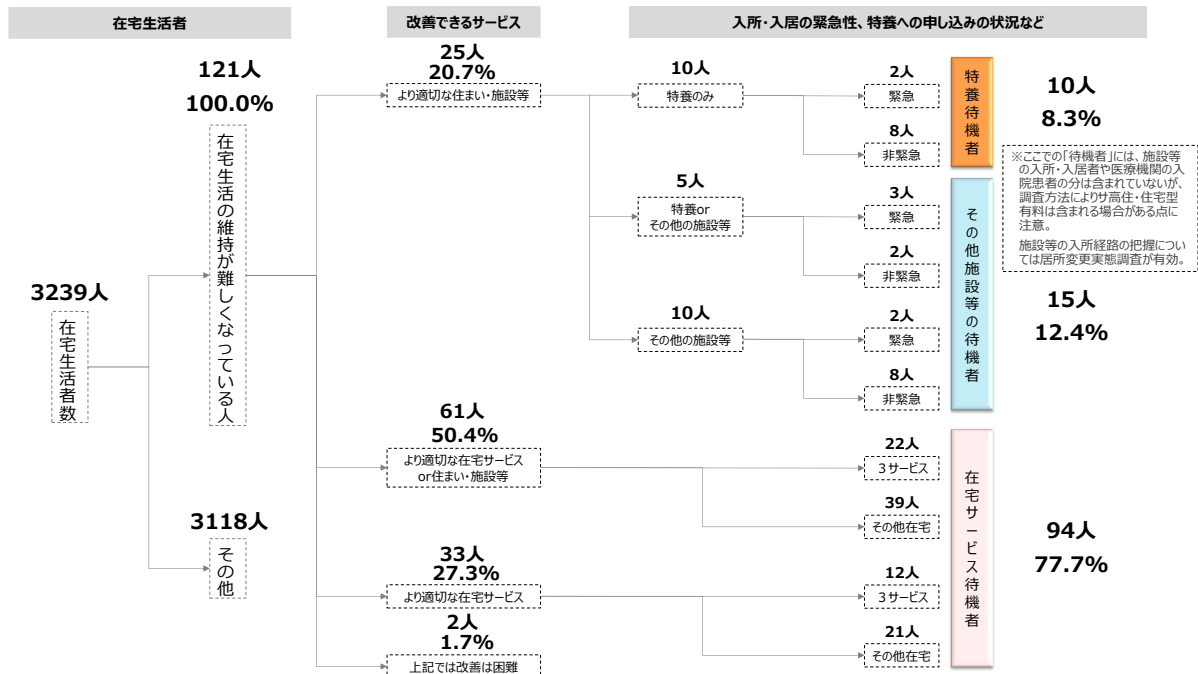
現在の利用者の状況

本人の生活の維持もしくは家族等介護者の就労継続のために、充実が必要な生活支援



現在の利用者の状況

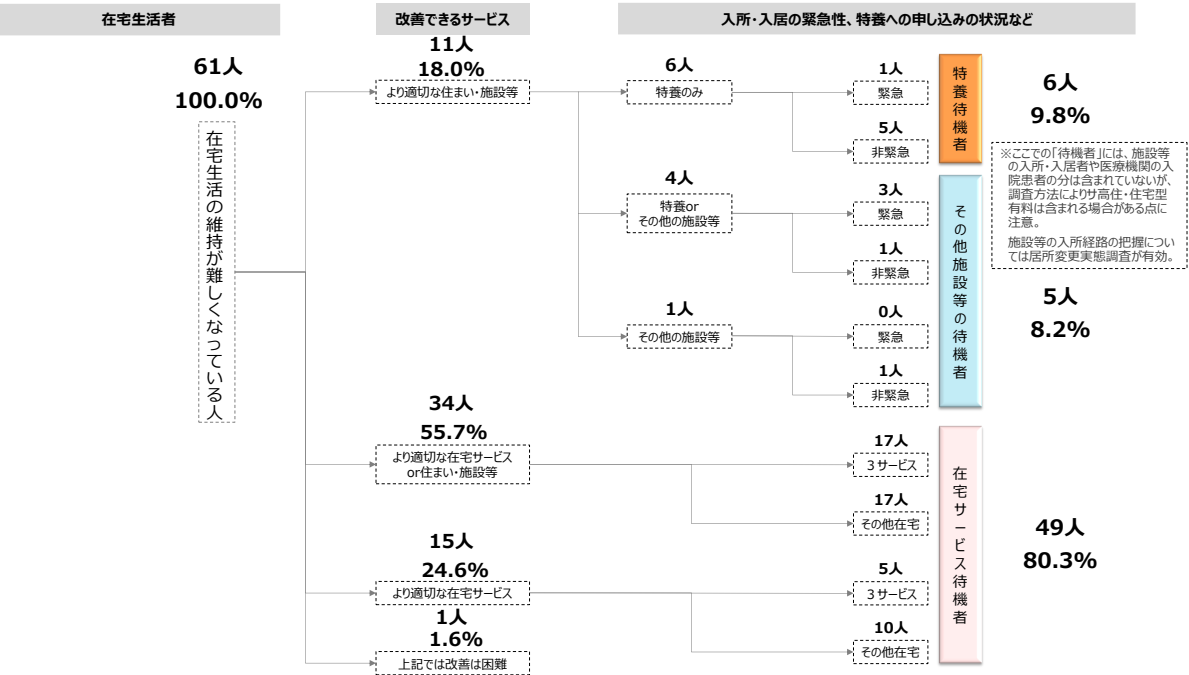
「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更



(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
 (注2) 「生活の維持が難しくなっている人」の合計125人のうち、上記の分類が可能な121人について分類しています(分類不能な場合は「その他」に算入しています)。割合(%)は、121人を分母として算出したものです。
 (注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
 (注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数を乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

現在の利用者の状況

「生活の維持が難しくなっている人」の生活の改善に必要なサービス変更（要介護3以上）

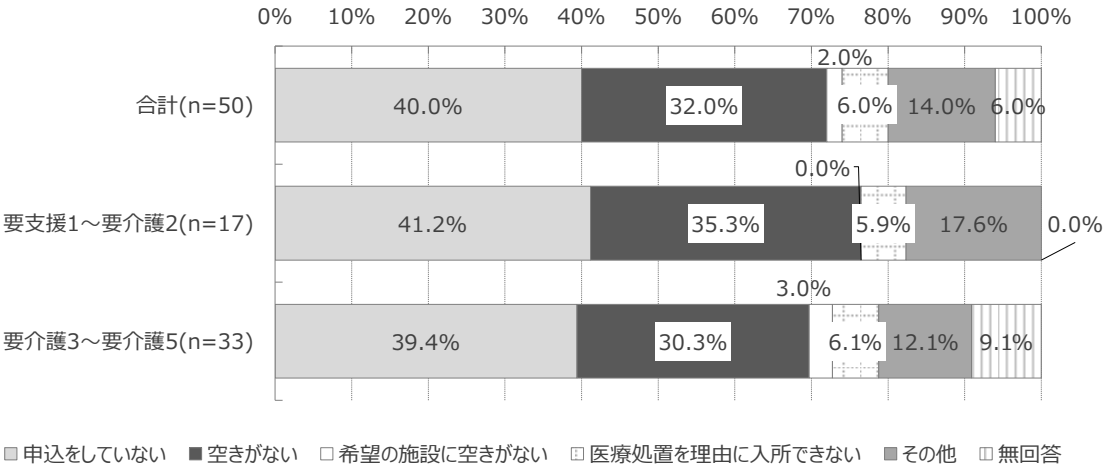


(注1) 「より適切な在宅サービスor住まい・施設等」については、選択された在宅サービスで「住まい・施設等」を代替できるとして、「在宅サービス待機者」に分類しています。
(注2) 「生活の維持が難しくなっている人（要介護3以上）」の合計61人のうち、上記の分類が可能な61人について分類しています（分類不能な場合は「その他」に算入しています）。割合（％）は、61人を分母として算出したものです。
(注3) 「非緊急」には、緊急度について「入所が望ましいが、しばらくは他のサービスでも大丈夫」「その他」と答えた方と無回答の方を含めています。
(注4) 上記に示す人数は、「回答実数」であり、回収率の逆数に乗じて簡易的に算出した「粗推計」されたものではありません。

17

現在の利用者の状況

特養に入所できていない理由
（改善に必要なサービスで、特養を選択した人）

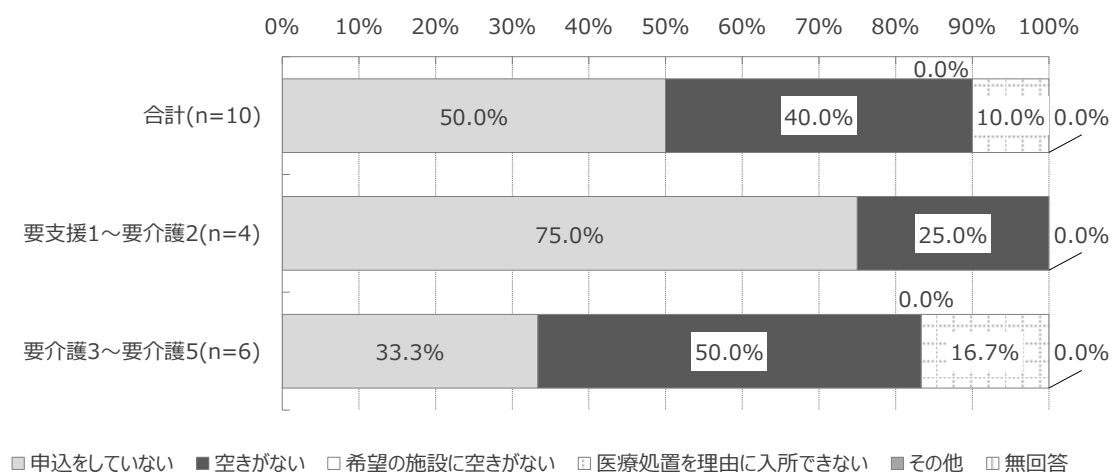


(注) 「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

18

現在の利用者の状況

特養に入所できていない理由
(改善に必要なサービスで、特養のみを選択した人)

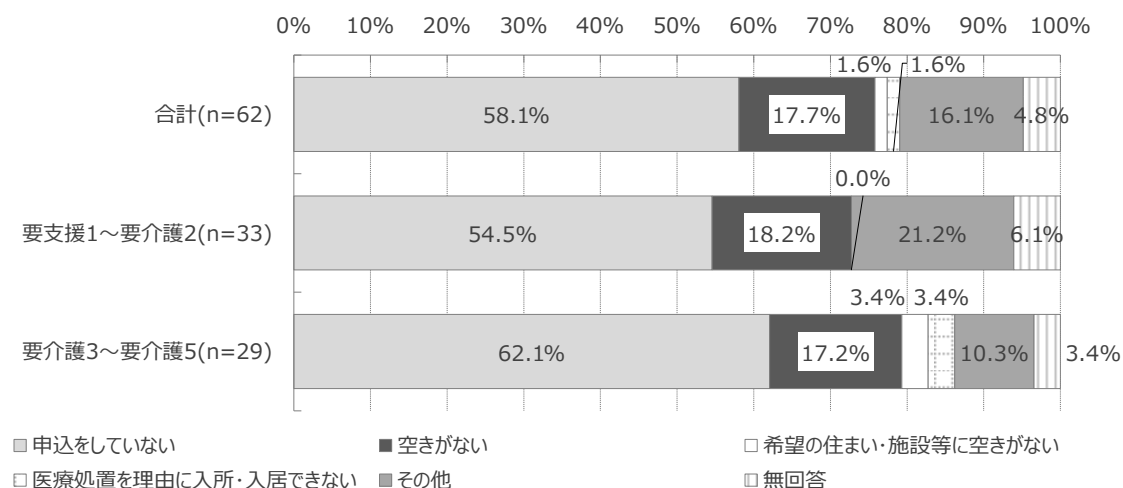


(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

19

現在の利用者の状況

特養以外の住まい・施設等に入所・入居できていない理由
(改善に必要なサービスで、特養以外の施設・住まい等を選択した人)



(注)「合計」には、要介護度が「新規申請中」の方や不明な方を含めています。

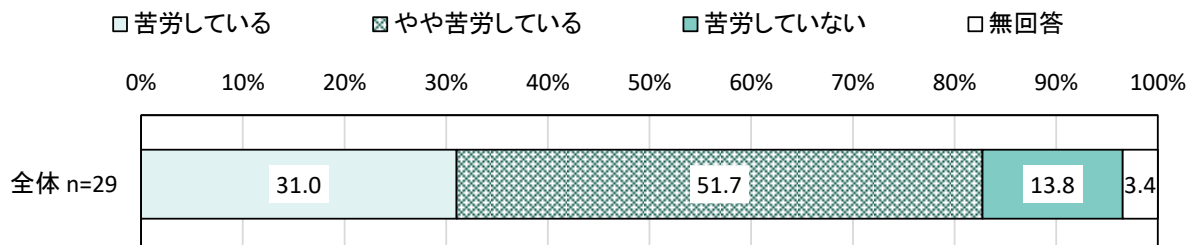
20

(2) 市独自の設問

① サービス提供事業者を探すことに苦労していますか。(1つに○)

【事業所票】問4-1

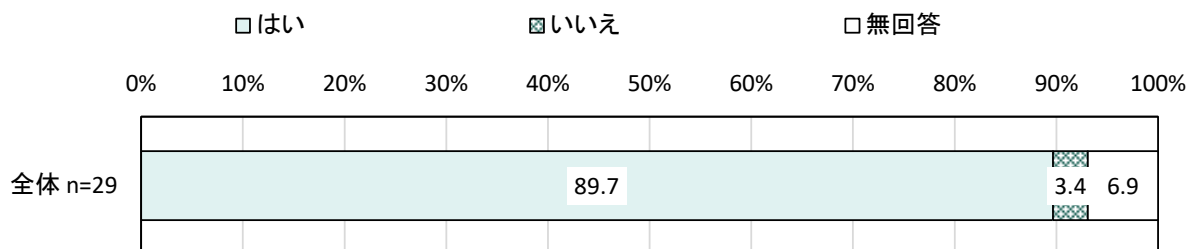
サービス提供事業者を探すことは、「やや苦労している」が51.7%で最も高く、次いで「苦労している」が31.0%、「苦労していない」が13.8%となっている。



② 利用者または家族は、最期まで住み慣れた地域で生活することを望んでいますか。(1つに○)

【事業所票】問4-2

最期まで住み慣れた地域で生活することを望んでいるかは、「はい」が89.7%、「いいえ」が3.4%となっている。



Ⅲ. 居所変更実態調査

(1) 国の示す設問

ver.2.0

居所変更実態調査 集計結果

2026/03/04

神奈川県鎌倉市

発送事業所数：68件

回収事業所数：15件

回収率：22.1%

(注1) 不正確な回答や無回答等がある場合、正確な集計結果となっていないおそれがあります。エクセルファイルに入力したデータを良くご確認ください。
 (注2) グラフのレイアウト等を変更する場合は、エクセルファイル上のグラフを修正の上、このファイルに貼り直してください。
 (注3) 構成比を示す表は、セルの赤色が濃いほど100%に近いことを示しています。

1

【居所変更実態調査】

調査の目的

- ・居所変更実態調査では、①過去1年間で施設・居住系サービスから居所を変更した方の人数や、②その理由等を把握します。
- ・そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じて、施設・居住系サービスでの生活の継続性を高めるために必要な機能や、外部サービス資源との連携等を検討し、具体的な取組につなげていくことを目的としています。

調査の概要

- ・アンケートは、施設・居住系サービスの管理者の方などにご回答いただきます。
- ・調査では、各施設・居住系サービスから過去1年間で居所を変更した方の人数と行先、居所変更の理由などを把握しますが、これは、「要介護者が、住み慣れた住まいで暮らし続けることができていく」という、地域のビジョンを達成するために、各施設・居住系サービスに「どのような機能が必要か」を検討することが目的となっています。
- ・今後は、介護人材の確保が困難となる地域も多い中、地域の施設・居住系サービスで最後まで暮らし続けるために、「量の拡大」ではなく、どのような「機能の強化」が必要かを検討することが重要になるのではないかと、という考えに基づいています。

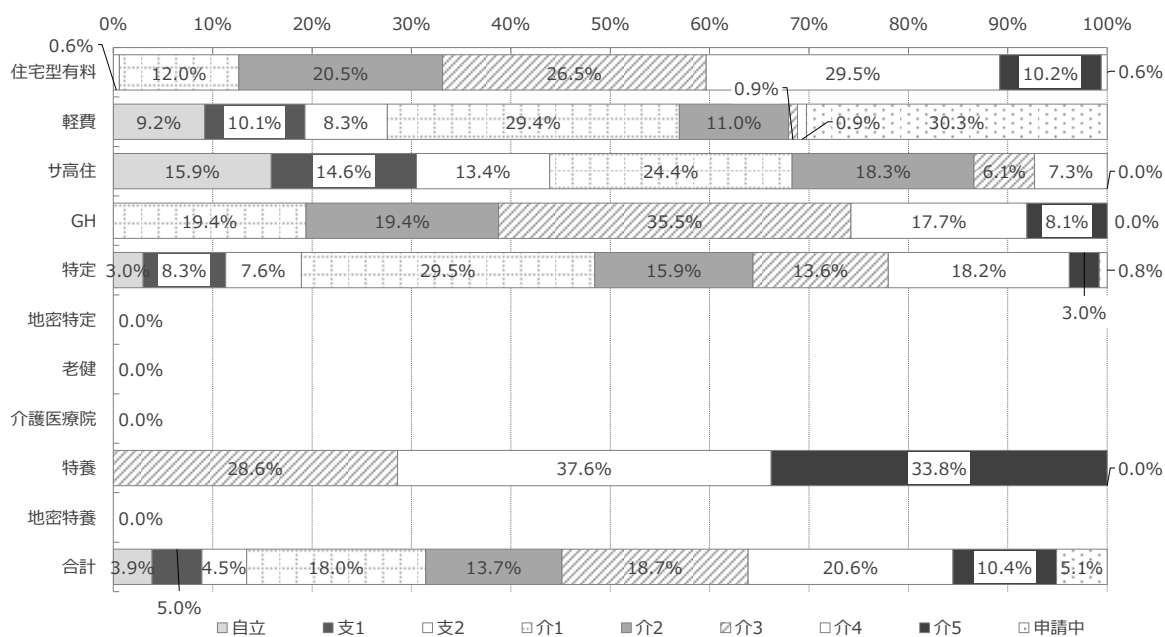
注目すべきポイント

- ・過去1年間で居所を変更した人と、死亡した人は、どの程度いるか？（どの程度の方が、最後までその施設等で暮らし続けることができたのか）
- ・居所を変更する理由として、多いものは何か？（どのような機能を強化することで、その施設等で暮らし続けることができるようになるのか）
- ・各施設・居住系サービスで、各医療処置を受けている人の人数はどの程度か？（各医療処置への対応が可能な施設・居住系サービスはどこか）

※ 特に居所を変更する理由や、必要な機能等については、アンケート調査の結果のみでなく、調査結果をもとに各施設・居住系サービスへのヒアリング調査などを通じて把握することが重要です。

2

現在の入所・入居者の要支援・要介護度



3

過去1年間の退居・退所者に占める居所変更・死亡の割合

サービス種別	居所変更	死亡	合計
住宅型有料 (n=4)	32人 46.4%	37人 53.6%	69人 100.0%
軽費 (n=2)	20人 95.2%	1人 4.8%	21人 100.0%
サ高住 (n=2)	8人 61.5%	5人 38.5%	13人 100.0%
GH (n=3)	10人 71.4%	4人 28.6%	14人 100.0%
特定 (n=2)	8人 27.6%	21人 72.4%	29人 100.0%
地密特定 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養 (n=2)	36人 54.5%	30人 45.5%	66人 100.0%
地密特養 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
合計 (n=15)	114人 53.8%	98人 46.2%	212人 100.0%

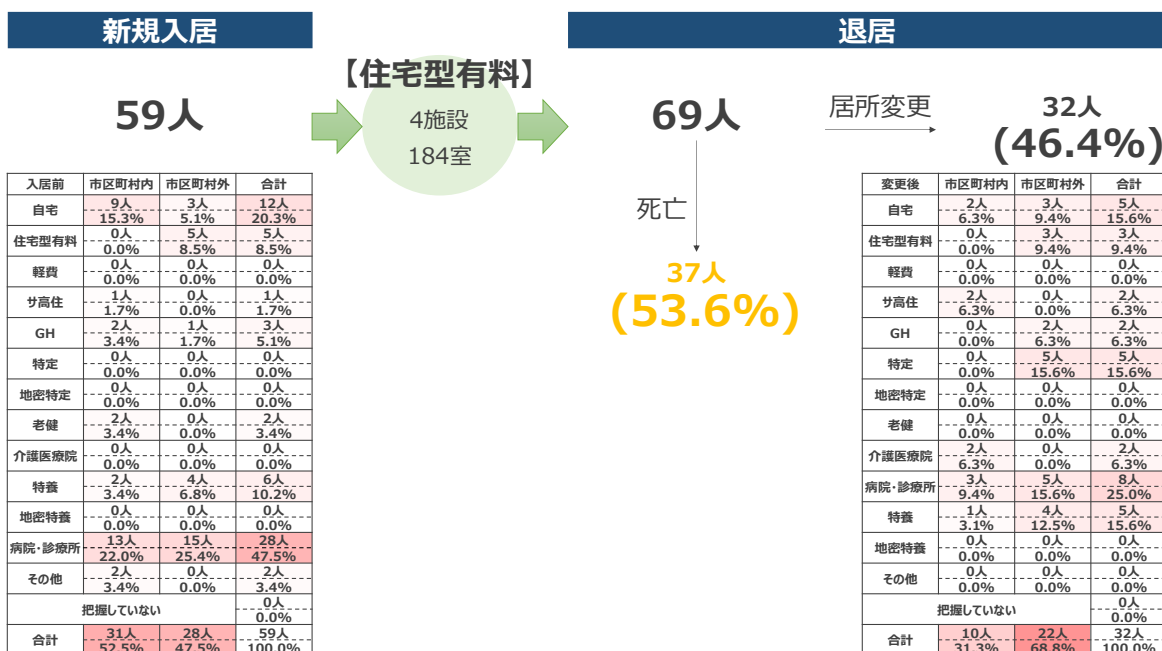


注目すべきポイント

・看取りまでできているのはどの住まいか？

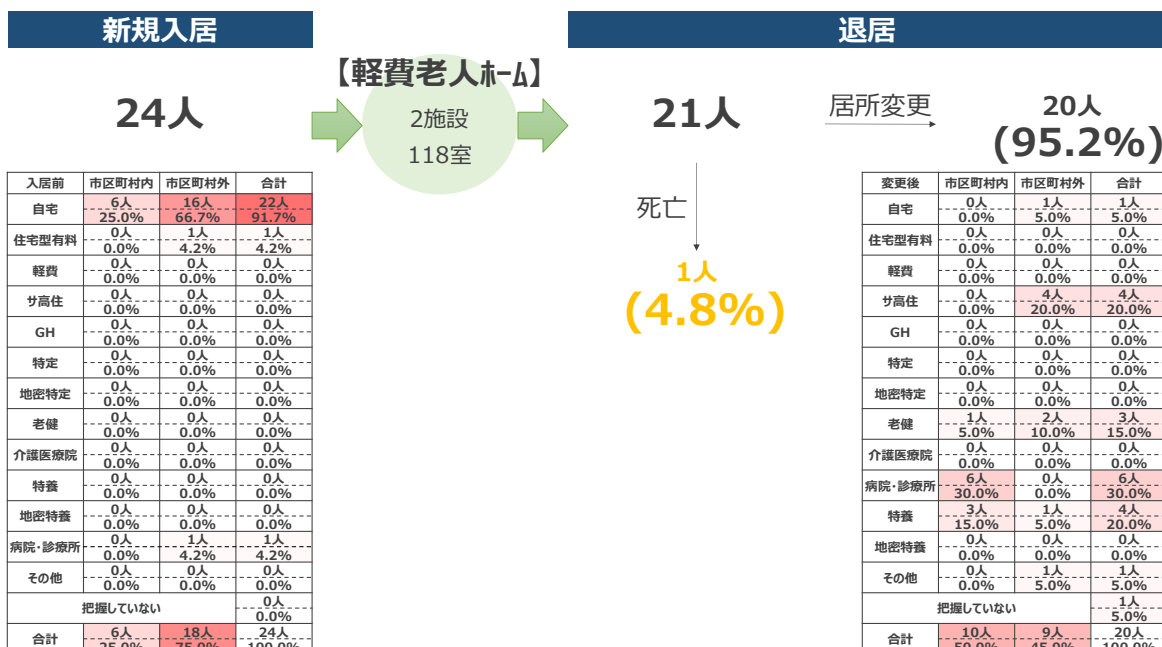
4

過去1年間の住宅型有料老人ホームの入居及び退居の流れ



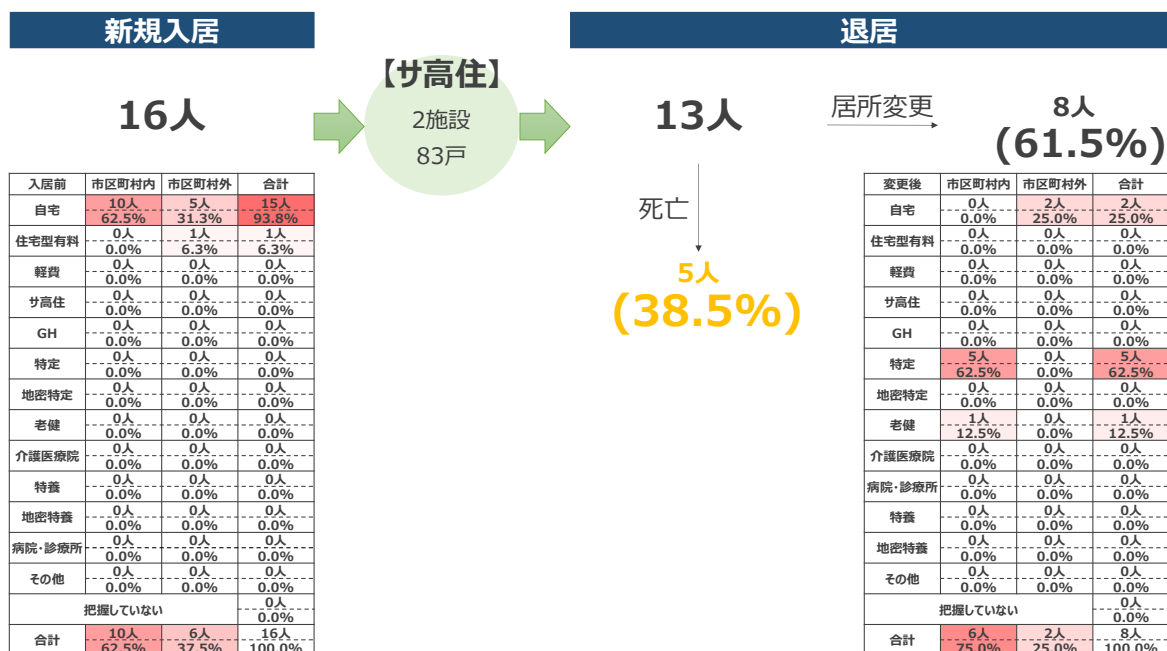
5

過去1年間の軽費老人ホームの入居及び退居の流れ



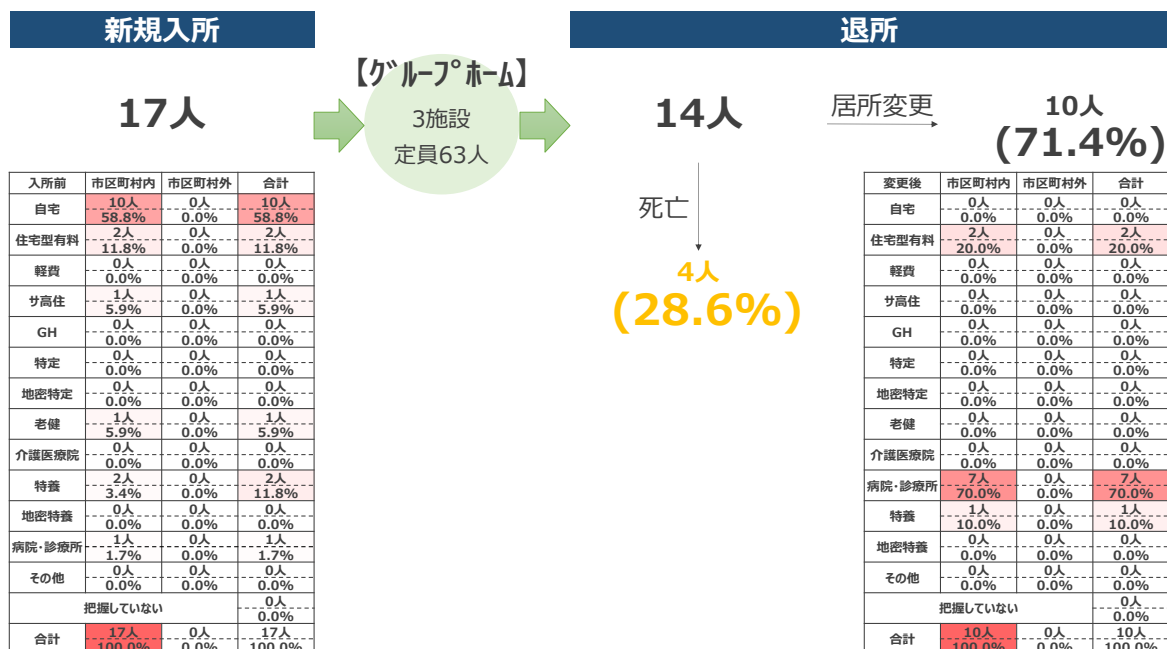
6

過去1年間のサービス付き高齢者向け住宅の入居及び退居の流れ



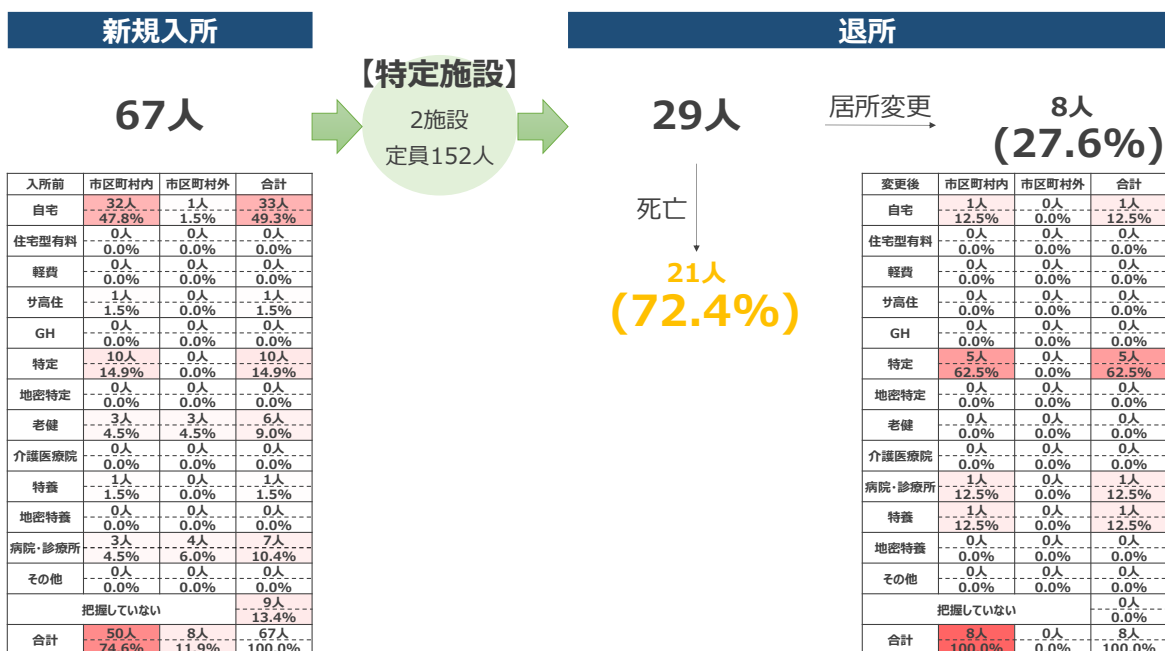
7

過去1年間のグループホームの入所及び退所の流れ



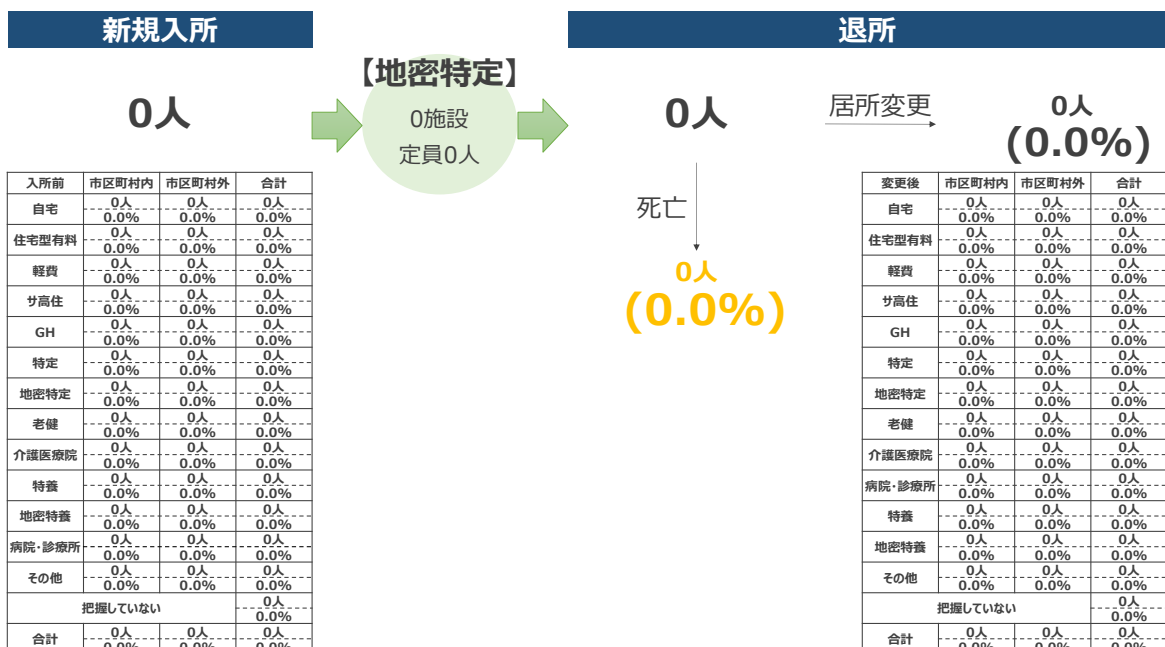
8

過去1年間の特定施設の入所及び退所の流れ



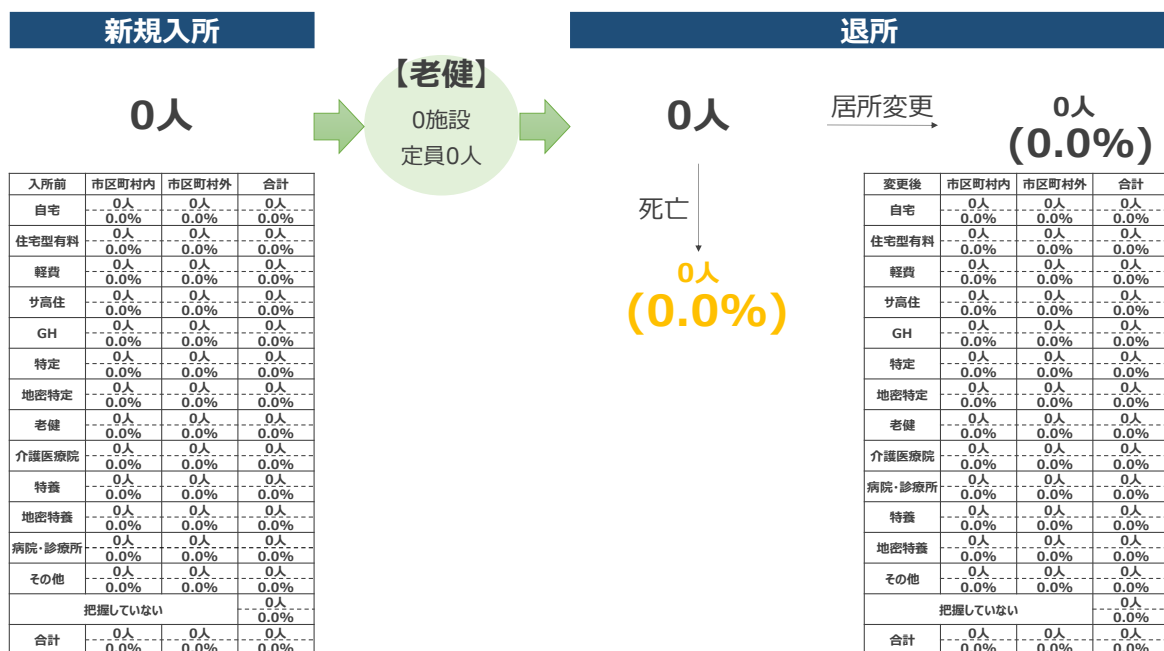
9

過去1年間の地域密着型特定施設の入所及び退所の流れ



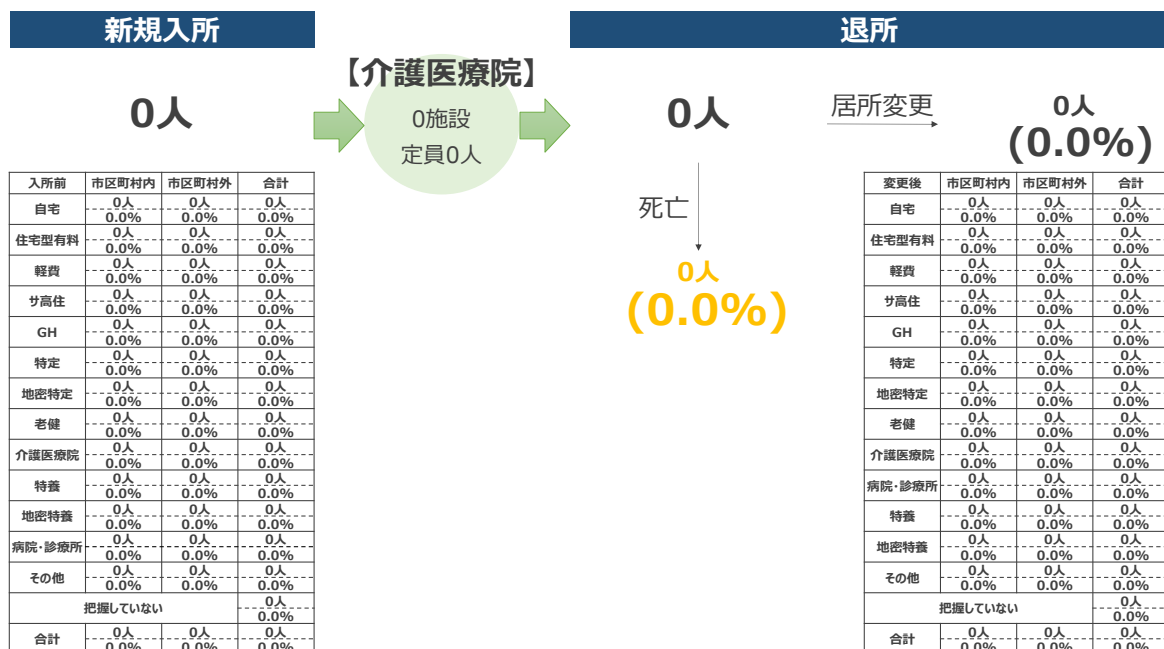
10

過去1年間の介護老人保健施設の入所及び退所の流れ



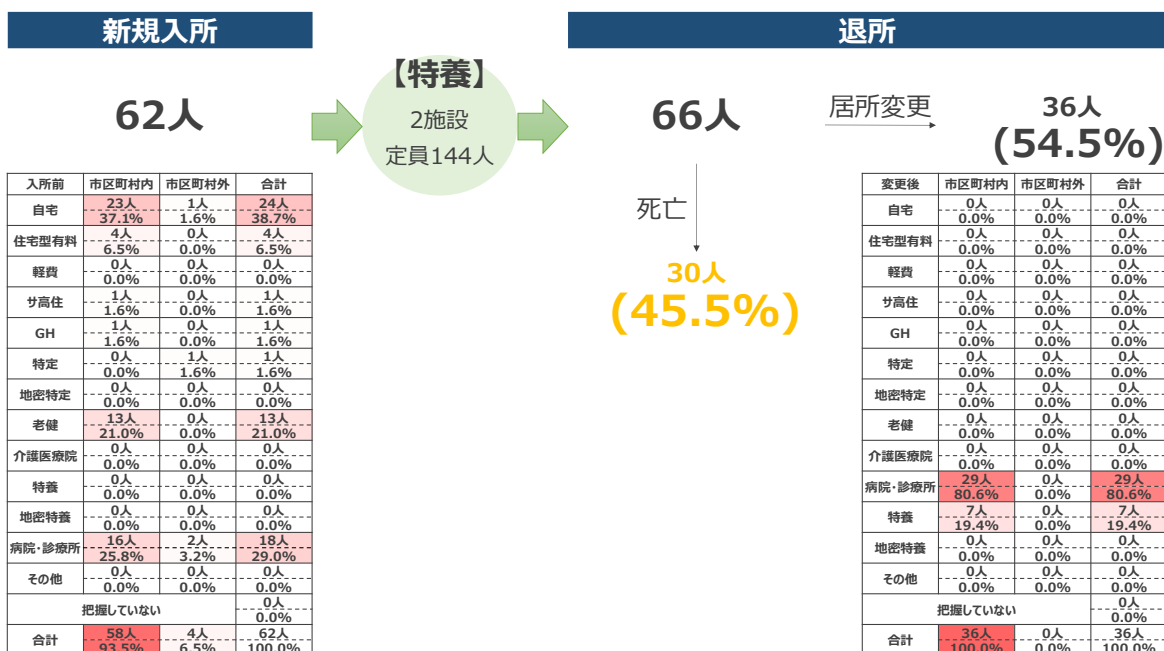
11

過去1年間の介護医療院の入所及び退所の流れ



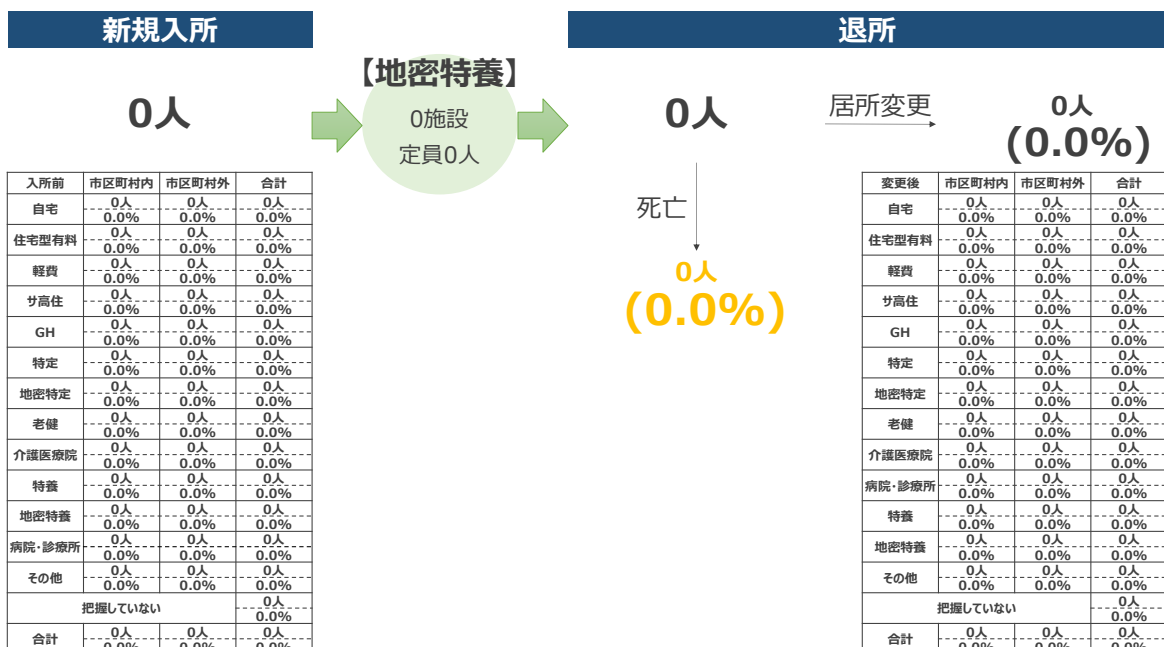
12

過去1年間の特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ



13

過去1年間の地域密着型特別養護老人ホームの入所及び退所の流れ



14

居所変更した人の要支援・要介護度

サービス種別	自立	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	死亡	申請中	合計
住宅型有料 (n=4)	0人 0.0%	1人 1.4%	0人 0.0%	5人 7.2%	4人 5.8%	11人 15.9%	8人 11.6%	5人 7.2%	34人 49.3%	1人 1.4%	69人 100.0%
軽費 (n=2)	1人 4.8%	1人 4.8%	3人 14.3%	6人 28.6%	3人 14.3%	5人 23.8%	0人 0.0%	1人 4.8%	0人 0.0%	1人 4.8%	21人 100.0%
サ高住 (n=2)	0人 0.0%	2人 15.4%	3人 23.1%	2人 15.4%	2人 15.4%	1人 7.7%	2人 15.4%	1人 7.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	13人 100.0%
GH (n=3)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 7.1%	0人 0.0%	3人 21.4%	6人 42.9%	1人 7.1%	3人 21.4%	0人 0.0%	14人 100.0%
特定 (n=2)	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 10.3%	2人 6.9%	3人 10.3%	3人 10.3%	3人 10.3%	1人 3.4%	14人 48.3%	0人 0.0%	29人 100.0%
地密特定 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
老健 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養 (n=2)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	5人 7.6%	15人 22.7%	16人 24.2%	30人 45.5%	0人 0.0%	66人 100.0%
地密特養 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
合計 (n=15)	1人 0.5%	4人 1.9%	9人 4.2%	16人 7.5%	12人 5.7%	28人 13.2%	34人 16.0%	25人 11.8%	81人 38.2%	2人 0.9%	212人 100.0%

15

居所変更した人の要支援・要介護度（老健を除外）

サービス種別	自立	支1	支2	介1	介2	介3	介4	介5	死亡	申請中	合計
住宅型有料 (n=4)	0人 0.0%	1人 1.4%	0人 0.0%	5人 7.2%	4人 5.8%	11人 15.9%	8人 11.6%	5人 7.2%	34人 49.3%	1人 1.4%	69人 100.0%
軽費 (n=2)	1人 4.8%	1人 4.8%	3人 14.3%	6人 28.6%	3人 14.3%	5人 23.8%	0人 0.0%	1人 4.8%	0人 0.0%	1人 4.8%	21人 100.0%
サ高住 (n=2)	0人 0.0%	2人 15.4%	3人 23.1%	2人 15.4%	2人 15.4%	1人 7.7%	2人 15.4%	1人 7.7%	0人 0.0%	0人 0.0%	13人 100.0%
GH (n=3)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	1人 7.1%	0人 0.0%	3人 21.4%	6人 42.9%	1人 7.1%	3人 21.4%	0人 0.0%	14人 100.0%
特定 (n=2)	0人 0.0%	0人 0.0%	3人 10.3%	2人 6.9%	3人 10.3%	3人 10.3%	3人 10.3%	1人 3.4%	14人 48.3%	0人 0.0%	29人 100.0%
地密特定 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
介護医療院 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
特養 (n=2)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	5人 7.6%	15人 22.7%	16人 24.2%	30人 45.5%	0人 0.0%	66人 100.0%
地密特養 (n=0)	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%	0人 0.0%
合計（老健除外） (n=15)	1人 0.5%	4人 1.9%	9人 4.2%	16人 7.5%	12人 5.7%	28人 13.2%	34人 16.0%	25人 11.8%	81人 38.2%	2人 0.9%	212人 100.0%

★施設等における死亡率（向上を目指す）

➡ 38.2%

★要介護2以下の居所変更率（低下を目指す）

➡ 19.8%

16

居所変更した理由

サービス種別	生活支援	身体介護	認知症	医療的ケア	その他状態像の悪化	状態等の改善	居宅サービス利用を望まなかった	費用負担	本人の希望	その他	無回答
住宅型有料 (n=4)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%	3 75.0%	1 25.0%	0 0.0%
軽費 (n=2)	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%
サ高住 (n=2)	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
GH (n=3)	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	3 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特定 (n=2)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%
地密特定 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
老健 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護医療院 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特養 (n=2)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
地密特養 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計 (n=15)	0 0.0%	3 20.0%	3 20.0%	13 86.7%	3 20.0%	1 6.7%	0 0.0%	5 33.3%	4 26.7%	2 13.3%	0 0.0%

17

受け入れ可能な医療処置の種類

サービス種別	点滴の管理	中心静脈栄養	透析	ストマの処置	酸素療法	いびきレター	気管切開の処置	疼痛の看護	経管栄養	モニター測定	褥瘡の処置	ケアール	喀痰吸引	インサリ注射	対応可能な医療処置はない
住宅型有料 (n=4)	1 25.0%	1 25.0%	2 50.0%	3 75.0%	2 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	3 75.0%	2 50.0%	0 0.0%	2 50.0%	0 0.0%	2 50.0%	2 50.0%	1 25.0%
軽費 (n=2)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%
サ高住 (n=2)	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%
GH (n=3)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 33.3%
特定 (n=2)	2 100.0%	0 0.0%	1 50.0%	2 100.0%	1 50.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	0 0.0%	2 100.0%	1 50.0%	1 50.0%	2 100.0%	0 0.0%
地密特定 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
老健 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
介護医療院 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
特養 (n=2)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	2 100.0%	2 100.0%	0 0.0%	0 0.0%	1 50.0%	1 50.0%	0 0.0%	2 100.0%	2 100.0%	1 50.0%	2 100.0%	0 0.0%
地密特養 (n=0)	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%	0 0.0%
合計 (n=15)	3 20.0%	1 6.7%	4 26.7%	7 46.7%	6 40.0%	0 0.0%	0 0.0%	4 26.7%	5 33.3%	0 0.0%	8 53.3%	4 26.7%	4 26.7%	6 40.0%	5 33.3%

18

医療処置が必要な入所・入居者数の割合

サービス種別	医療処置を受けている 入所・入居者数
住宅型有料 (n=4)	4人 2.4%
軽費 (n=2)	0人 0.0%
サ高住 (n=2)	2人 2.4%
GH (n=3)	1人 1.6%
特定 (n=2)	14人 10.6%
地密特定 (n=0)	0人 0.0%
老健 (n=0)	0人 0.0%
介護医療院 (n=0)	0人 0.0%
特養 (n=2)	15人 11.3%
地密特養 (n=0)	0人 0.0%
合計 (n=15)	36人 5.3%

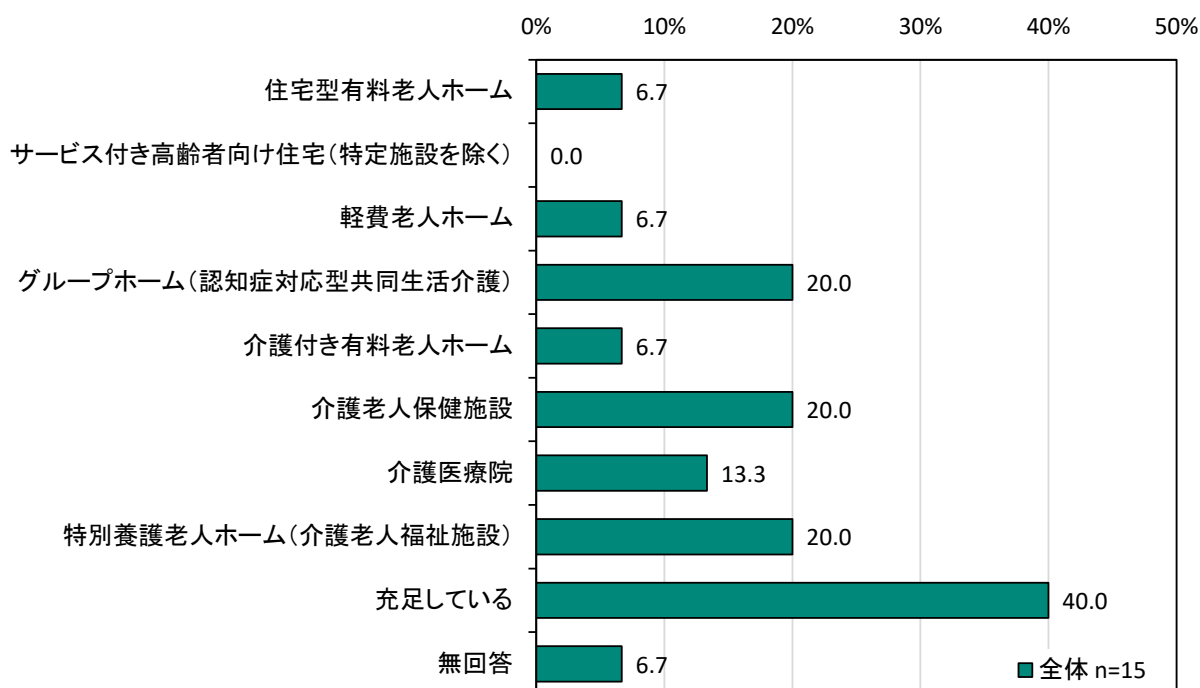
(注) 割合は各セルの人数を施設等ごとの入居・入所者数で除して算出しています。

(2) 市独自の設問

① 市内に不足していると感じる施設等を選んでください。(複数選択可)

問 12-1

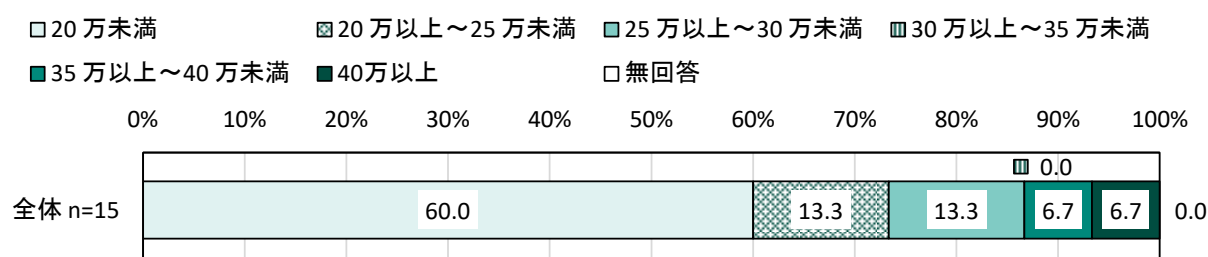
市内に不足していると感じる施設は、「充足している」が 40.0%と最も高く、次いで「グループホーム（認知症対応型共同生活介護）」「介護老人保健施設」「特別養護老人ホーム（介護老人福祉施設）」が 20.0%、「介護医療院」が 13.3%となっている。



② 介護3の方が入居した場合、利用者（1割負担）が支払う月額料金を教えてください。 【月額料金は居住費、介護サービス費を加算した金額（各種軽減制度の利用はなし）】（1つに○）

問 12-2

介護3の方が入居した場合、利用者（1割負担）が支払う月額料金は、「20万未満」が 60.0%で最も高く、次いで「20万以上～25万未満」「25万以上～30万未満」が 13.3%となっている。



Ⅲ. 居所変更実態調査

■クロス集計

サービス種別でみると、下表のとおりとなっている。

単位：％

区分		回答者数 (件)	20万未満	20万以上 ～ 25万未満	25万以上 ～ 30万未満	30万以上 ～ 35万未満	35万以上 ～ 40万未満	40万以上	無回答
全体		15	<u>60.0</u>	13.3	13.3	0.0	6.7	6.7	0.0
サービス種別	住宅型有料老人ホーム	4	25.0	<u>50.0</u>	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	軽費老人ホーム(特定施設除く)	2	<u>100.0</u>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	サービス付き高齢者向け住宅(特定施設除く)	2	<u>50.0</u>	0.0	<u>50.0</u>	0.0	0.0	0.0	0.0
	グループホーム	3	<u>100.0</u>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	特定施設	2	0.0	0.0	0.0	0.0	<u>50.0</u>	<u>50.0</u>	0.0
	介護老人保健施設	0	－	－	－	－	－	－	－
	介護医療院	0	－	－	－	－	－	－	－
	特別養護老人ホーム	2	<u>100.0</u>	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	地域密着型特別養護老人ホーム	0	－	－	－	－	－	－	－

IV. 介護人材実態調査

(1) 国の示す設問

ver.2.0

介護人材実態調査 集計結果

2026/03/04

神奈川県鎌倉市

発送事業所数：174件

回収事業所数：53件

回収率：30.5%

(注1) 不正確な回答や無回答等がある場合、正確な集計結果となっていないおそれがあります。エクセルファイルに入力したデータを良くご確認ください。
 (注2) グラフのレイアウト等を変更する場合は、エクセルファイル上のグラフを修正の上、このファイルに貼り直してください。
 (注3) 構成比を示す表は、セルの赤色が濃いほど100%に近いことを示しています。

1

【介護人材実態調査】

調査の目的

- ・介護人材実態調査では、介護人材の①性別・年齢構成、②資格保有状況、③過去1年間の採用・離職の状況、④訪問介護サービスにおけるサービス提供の実態などを把握します。
- ・そして、調査の結果や、調査結果に基づいた関係者間での議論を通じて、地域内の介護人材の確保・サービス提供方法の改善などにつなげていくことを目的としています。

調査の概要

- ・アンケートは、事業所、施設・居住系サービスの管理者の方などにご回答いただきます。
- ・調査では、各事業所等に所属する介護職員の数や、採用・離職の状況に加え、各介護職員の属性を個別にご回答いただくことで、多様なクロス集計を可能にしています。
- ・また、訪問介護事業所については、別途に職員が回答する「職員票」を用意しています。これは、特に訪問介護について、個々の職員の身体介護・生活援助の提供状況を把握することで、サービス提供に見直しの余地がないか検討することを想定しています。
 (例えば、買い物や調理・配膳などの提供を、地域のボランティア等が担うことはできないか検討するなど)

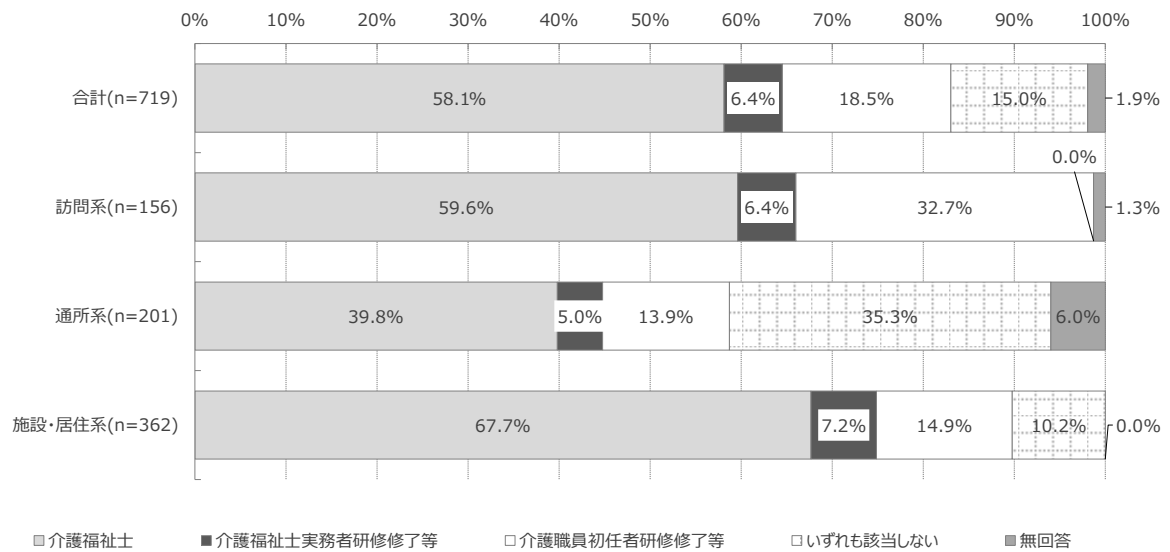
注目すべきポイント

- ・サービス系統別の、介護職員の性別・雇用形態別の年齢構成は？
 (サービス系統別に大きな偏りはみられないか)
- ・過去1年間の、サービス系統別の採用・離職の実態は？
 (要介護者数の増加に比して、介護職員数は増加しているか)
- ・訪問介護のサービス提供に、見直しの余地はないか？
 (生活援助について、地域のボランティア等が担う余地はないか)

2

IV. 介護人材実態調査

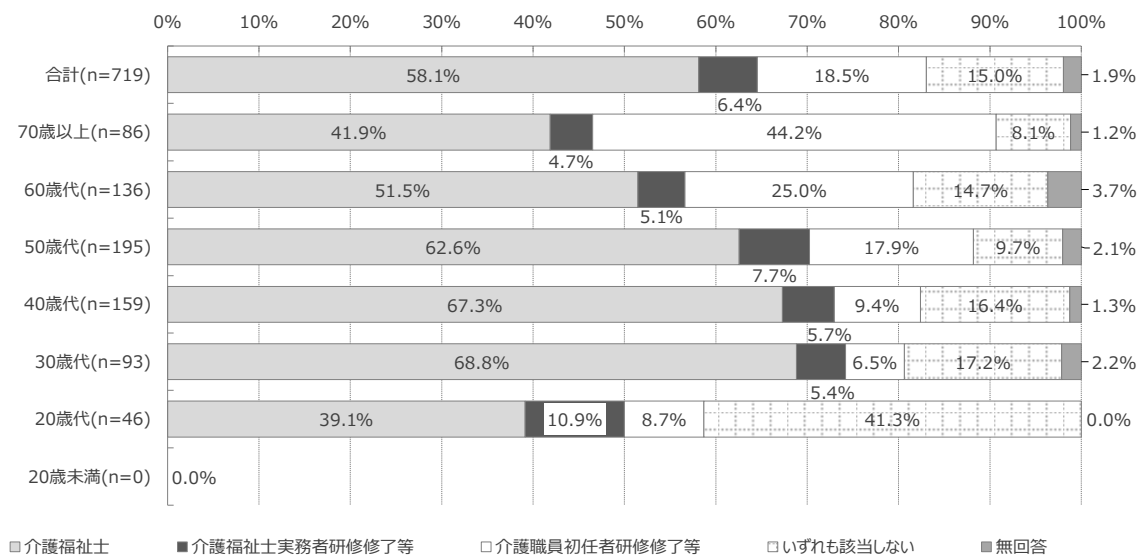
サービス系統別の資格保有の状況



(注)「合計」にはサービス系統不詳の方を含めています。

3

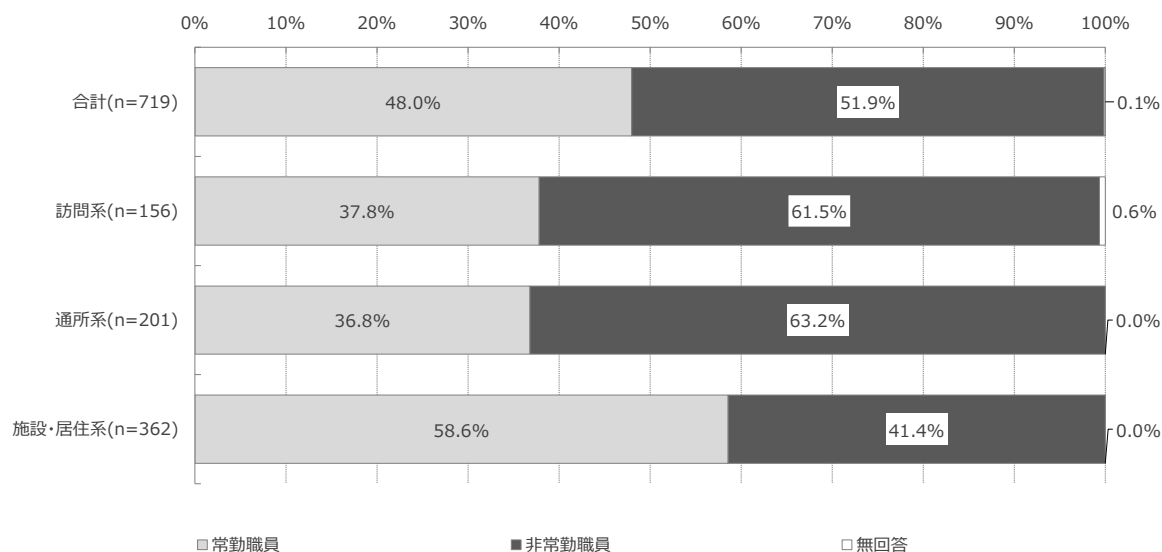
年齢別の資格保有の状況



(注)「合計」には年齢不詳の方を含めています。

4

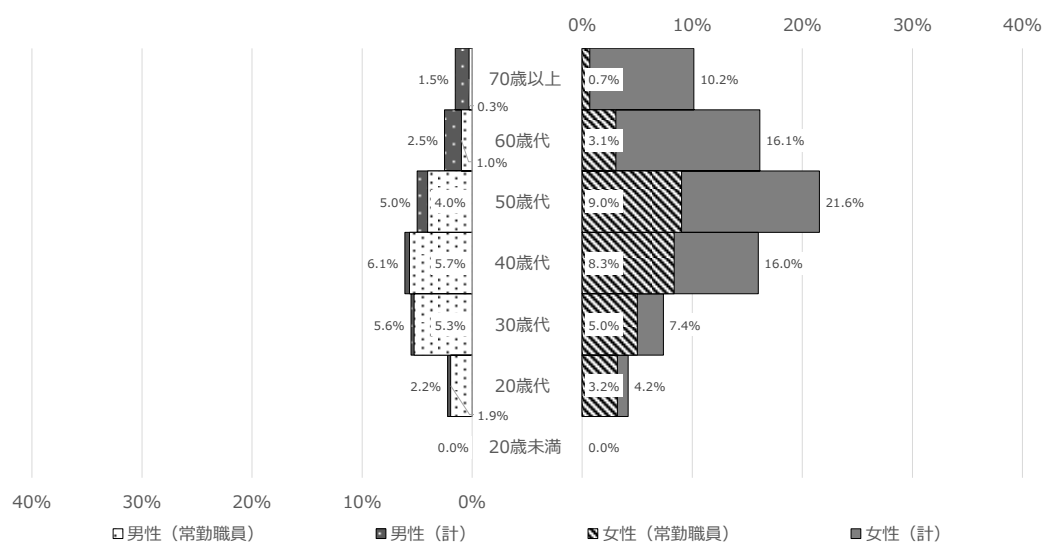
サービス系統別の常勤職員・非常勤職員の割合



(注)「合計」にはサービス系統不詳の方を含めています。

5

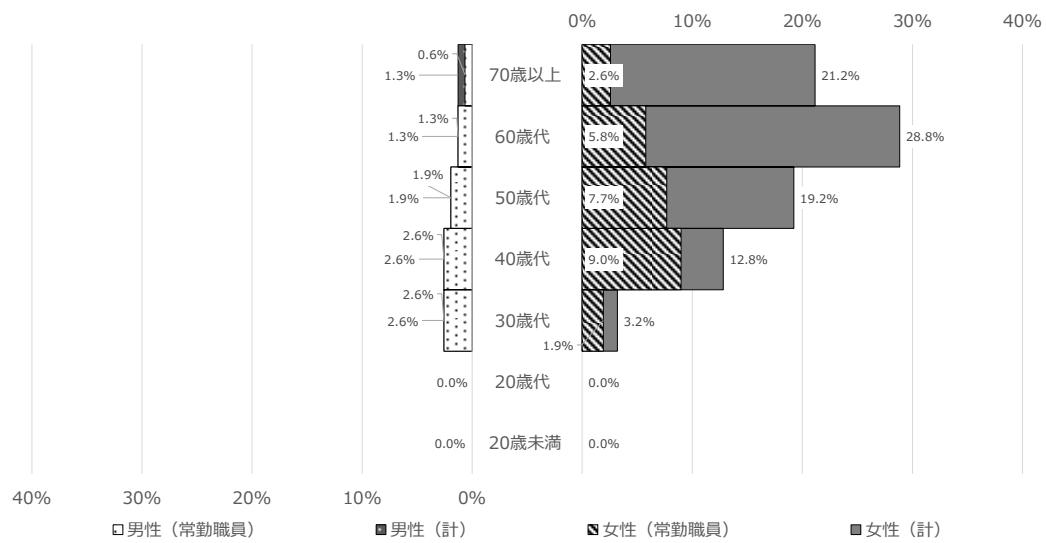
性別・年齢別の雇用形態の構成比（全サービス系統合計、n=719）



(注) 分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

6

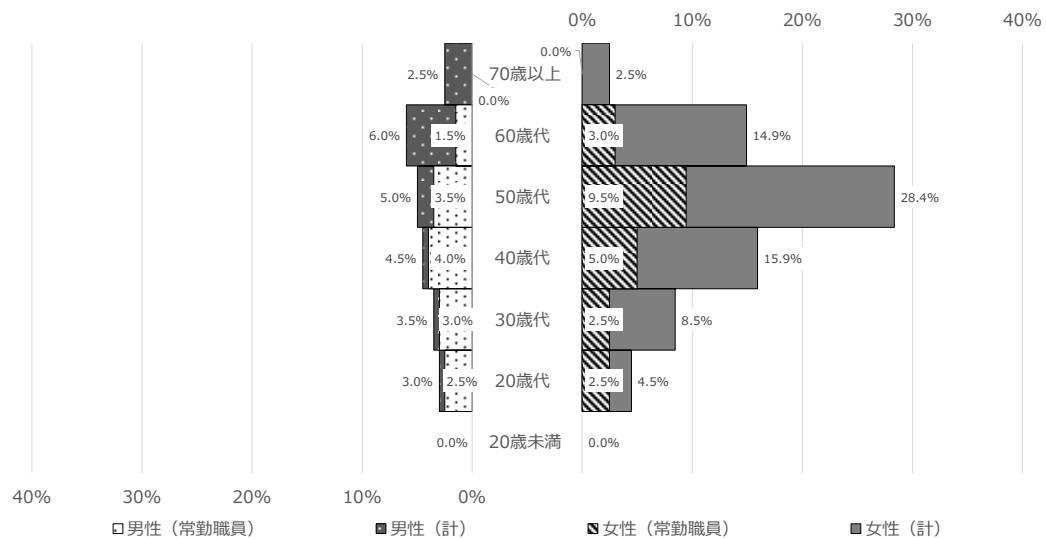
性別・年齢別の雇用形態の構成比（訪問系、n=156）



（注）分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

7

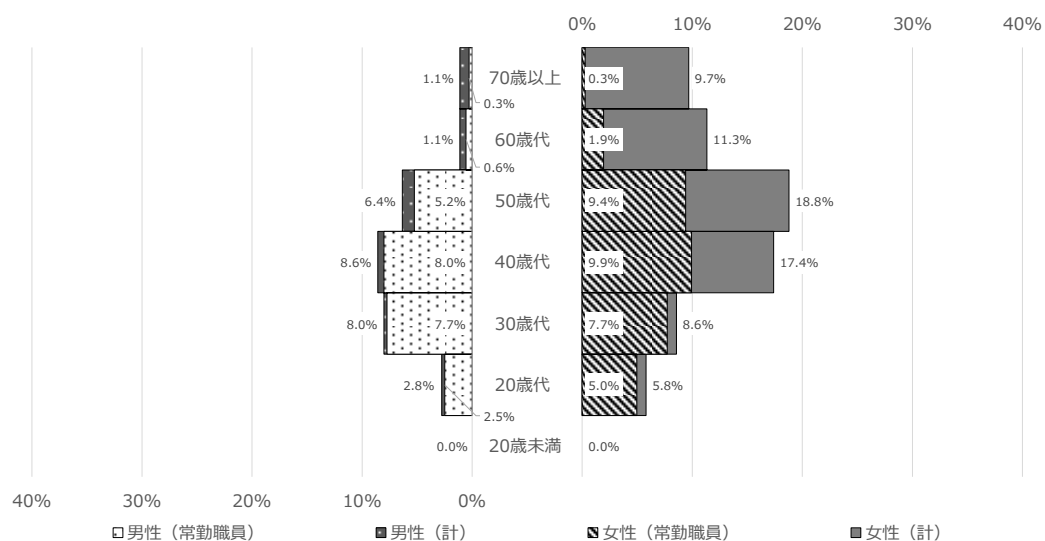
性別・年齢別の雇用形態の構成比（通所系、n=201）



（注）分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

8

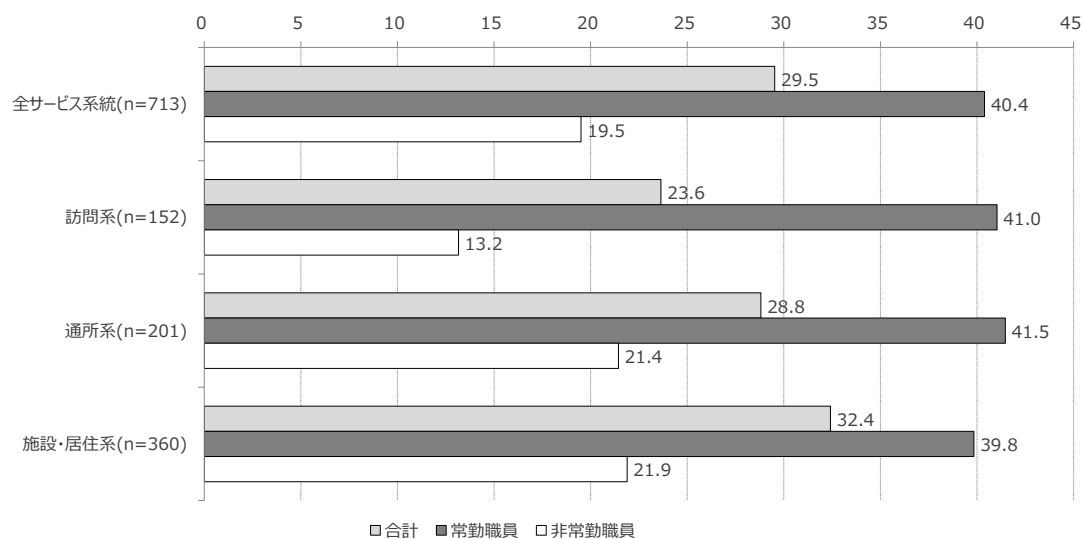
性別・年齢別の雇用形態の構成比（施設・居住系、n=362）



（注）分母には年齢・雇用形態不詳の方を含めて割合を算出しています。

9

職員1人あたりの1週間の勤務時間（単位：時間）



（注）「合計」には雇用形態不詳の方を含めています。また、「全サービス系統」にはサービス系統不詳の方を含めています。

10

介護職員数の変化

サービス系統 (該当事業所数)	職員総数			採用者数			離職者数			昨年比		
	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計	常勤職員	非常勤職員	小計
全サービス系統(n=53)	368人	411人	779人	67人	72人	139人	66人	46人	112人	100.3%	106.8%	103.6%
訪問系(n=11)	72人	113人	185人	5人	10人	15人	12人	7人	19人	91.1%	102.7%	97.9%
通所系(n=26)	79人	142人	221人	16人	34人	50人	10人	12人	22人	108.2%	118.3%	114.5%
施設・居住系(n=16)	217人	156人	373人	46人	28人	74人	44人	27人	71人	100.9%	100.6%	100.8%

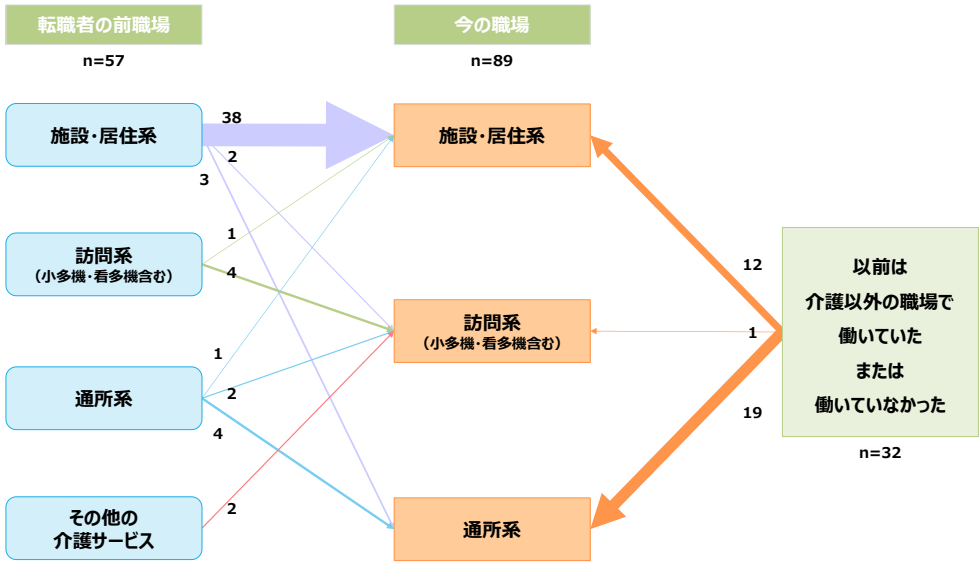
前の職場が介護事業所である職員の前の職場の場所

前の職場の場所	現在の職場							
	全サービス系統		訪問系		通所系		施設・居住系	
合計	63人	100.0%	11人	100.0%	9人	100.0%	43人	100.0%
同一市区町村	17人	27.0%	8人	72.7%	4人	44.4%	5人	11.6%
他の市区町村	43人	68.3%	2人	18.2%	5人	55.6%	36人	83.7%

(注) 上表・下表の「全サービス系統」にはサービス系統不詳の事業所を含めています。また、下表の「合計」には前の職場の場所が不詳の方を含めています。

11

過去1年間の介護職員の職場の変化 (同一法人・グループ内での異動は除く)



(注) 上記の分類が可能となる全ての設問に回答のあった方のみを集計対象としています。

12

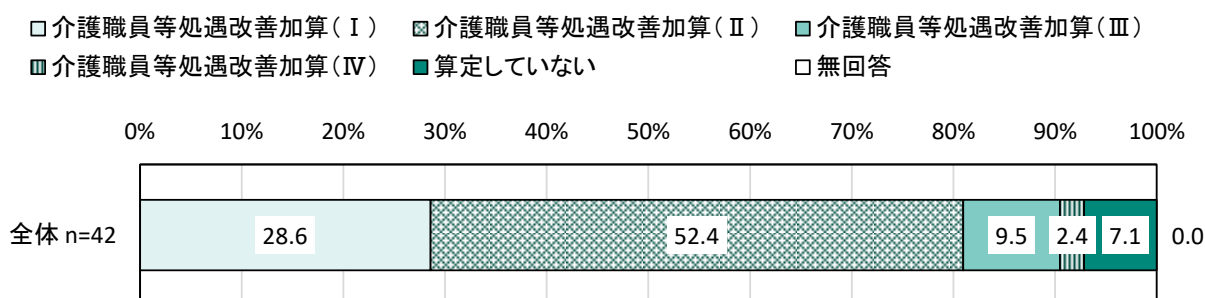
(2) 市独自の設問

事業所への設問

① 介護職員等処遇改善加算を算定している場合は、区分をご回答ください。(1つに○)

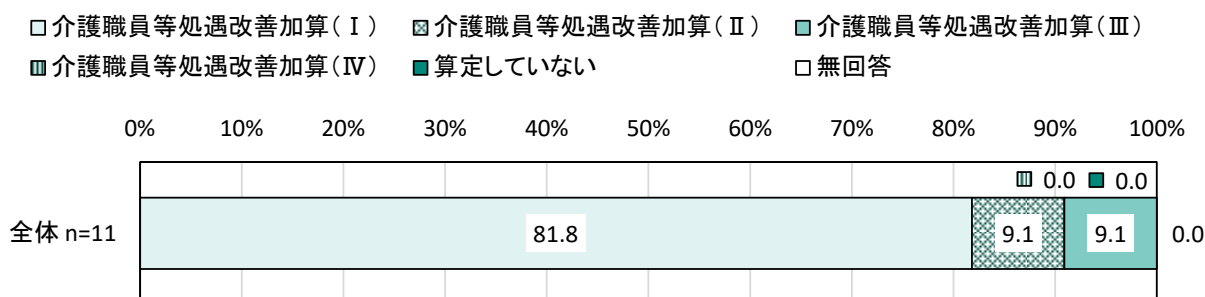
【事業所票（施設・通所系）】問4－1

介護職員等処遇改善加算の区分は、「介護職員等処遇改善加算（Ⅱ）」が52.4%で最も高く、次いで「介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）」が28.6%、「介護職員等処遇改善加算（Ⅲ）」が9.5%となっている。



【事業所票（訪問系）】問4－1

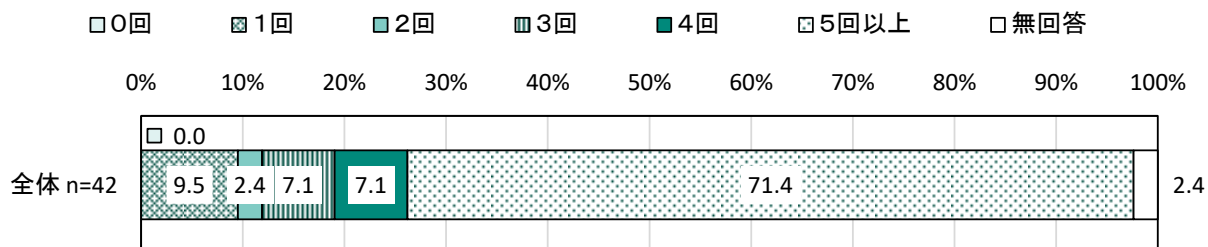
介護職員等処遇改善加算の区分は、「介護職員等処遇改善加算（Ⅰ）」が81.8%で最も高く、次いで「介護職員等処遇改善加算（Ⅱ）」「介護職員等処遇改善加算（Ⅲ）」が9.1%となっている。



② 1年に自主研修をどのくらいやっているかをご回答ください。(1つに○)

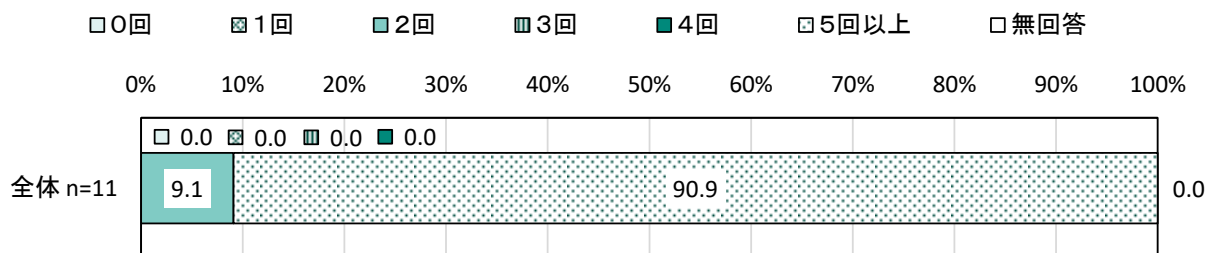
【事業所票（施設・通所系）】問4－2

1年間の自主研修回数は、「5回以上」が71.4%で最も高く、次いで「1回」が9.5%、「3回」「4回」が7.1%となっている。



【事業所票（訪問系）】問4－2

1年間の自主研修回数は、「5回以上」が90.9%で最も高く、次いで「2回」が9.1%となっている。

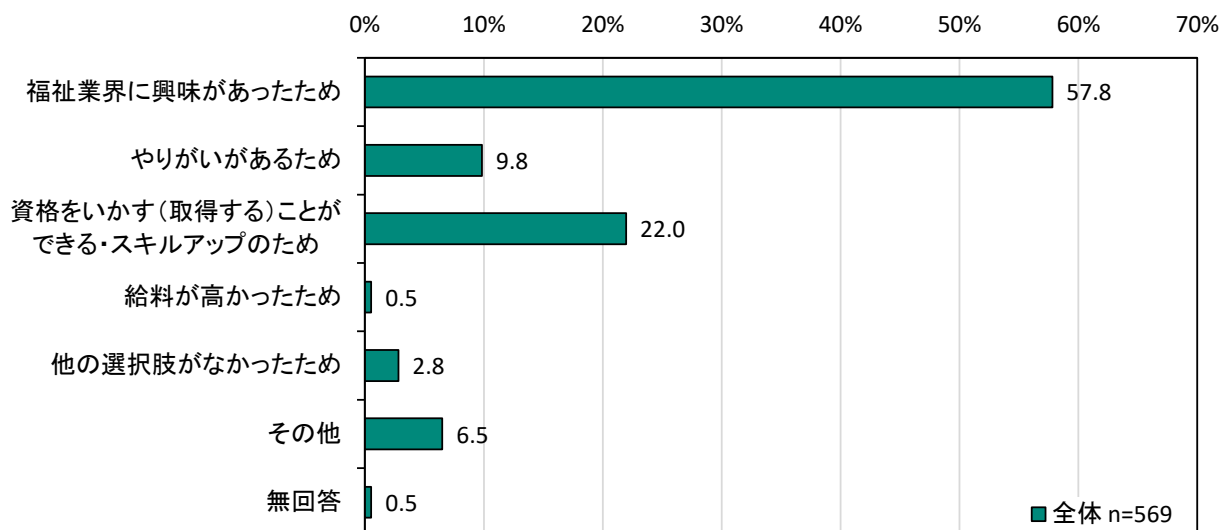


職員への設問

③ 介護業界を選択した理由

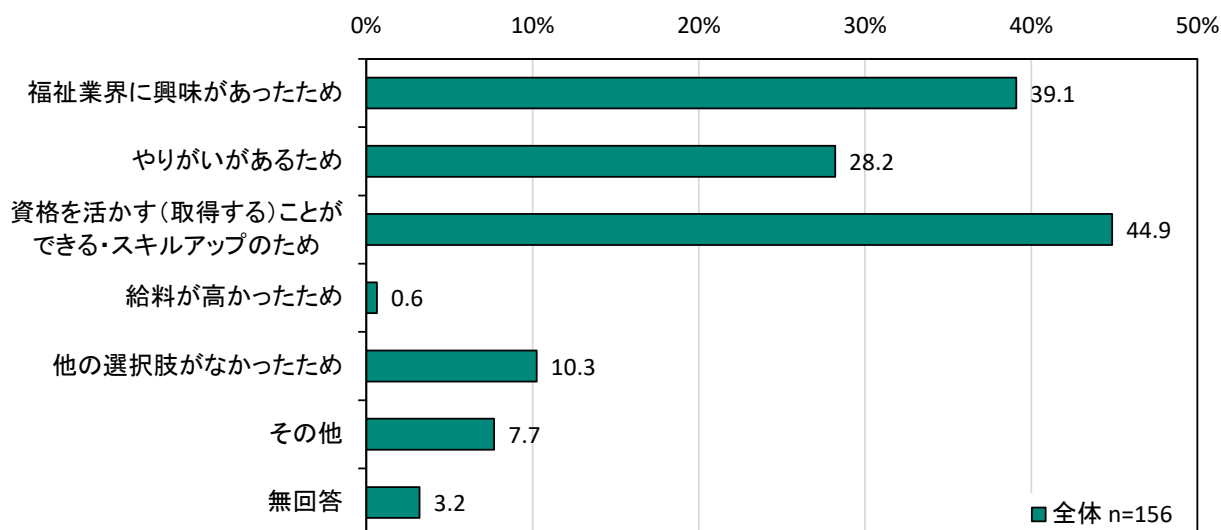
【事業所票（施設・通所系）】問5－9（1つに○）

介護業界を選択した理由は、「福祉業界に興味があったため」が57.8%で最も高く、次いで「資格をいかす（取得する）ことができる・スキルアップのため」が22.0%、「やりがいがあるため」が9.8%となっている。



【職員票（訪問系）】問6－1（複数選択可）

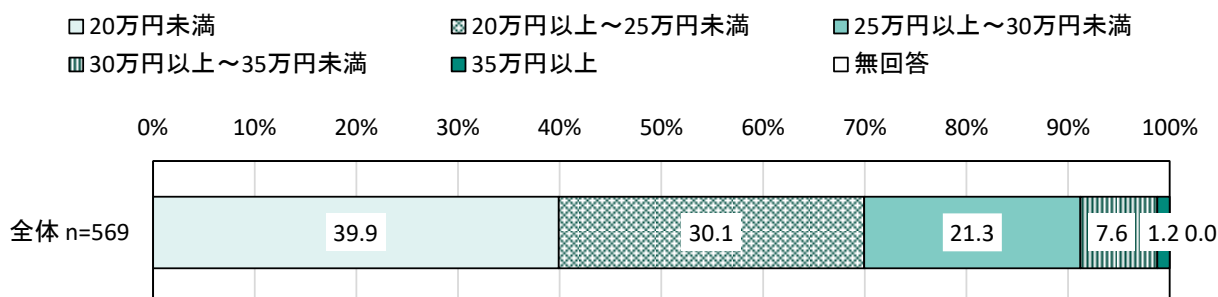
介護業界を選択した理由は、「資格を活かす（取得する）ことができる・スキルアップのため」が44.9%で最も高く、次いで「福祉業界に興味があったため」が39.1%、「やりがいがあるため」が28.2%となっている。



④ 介護職の月額給料（手取り）がどのくらいかをご回答ください。（1つに○）

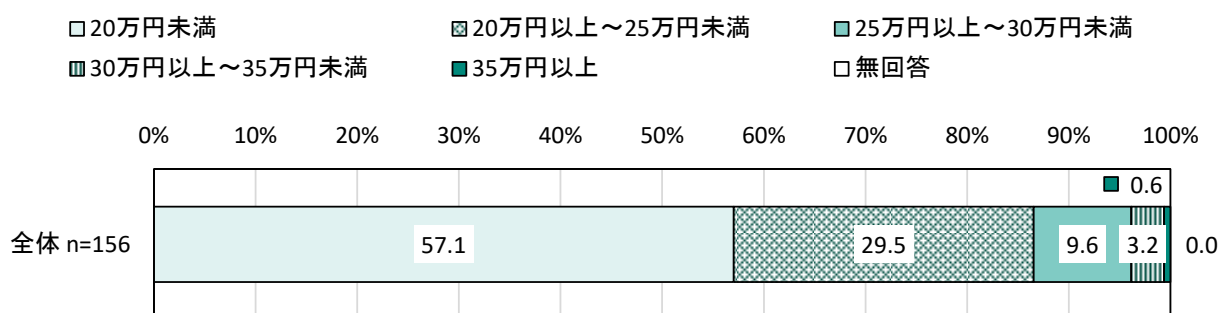
【事業所票（施設・通所系）】問5－10

介護職の月額給料は、「20万円未満」が39.9%で最も高く、次いで「20万円以上～25万円未満」が30.1%、「25万円以上～30万円未満」が21.3%となっている。



【職員票（訪問系）】問6－2

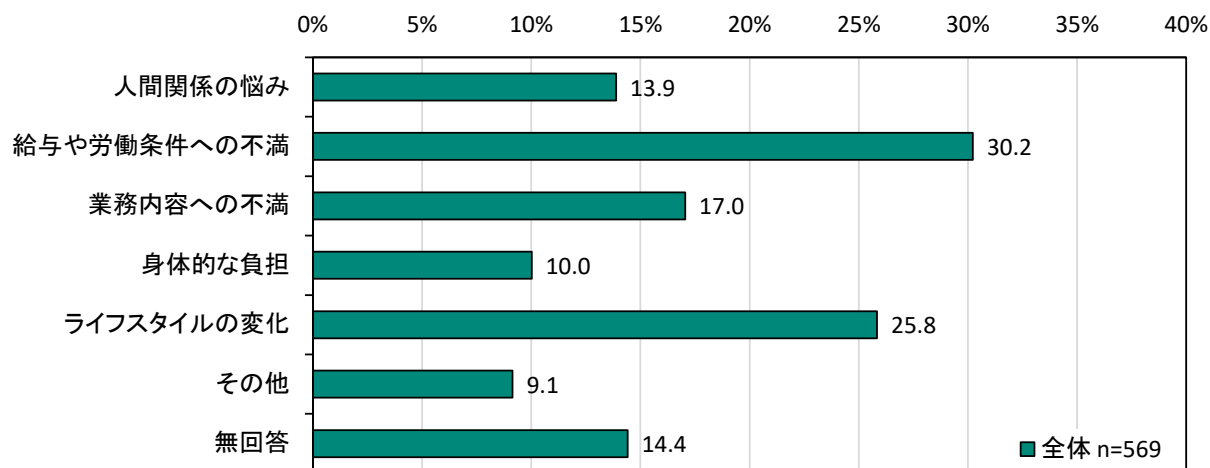
介護職の月額給料は、「20万円未満」が57.1%で最も高く、次いで「20万円以上～25万円未満」が29.5%、「25万円以上～30万円未満」が9.6%となっている。



⑤ 現在の事業所に勤務する以前の職場がある方に伺います。以前の施設等を辞めた理由をご回答ください。（複数選択可）

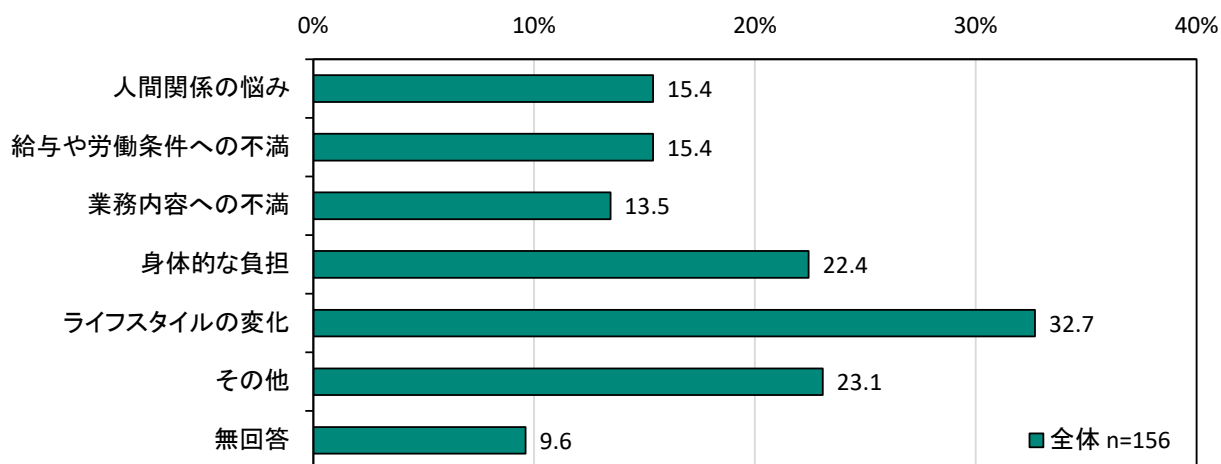
【事業所票（施設・通所系）】問5－11

以前の施設等を辞めた理由は、「給与や労働条件への不満」が 30.2%で最も高く、次いで「ライフスタイルの変化」が 25.8%、「業務内容への不満」が 17.0%となっている。



【職員票（訪問系）】問6－3

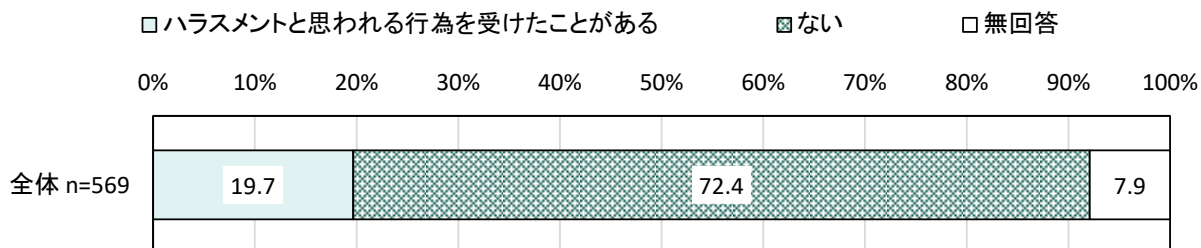
以前の施設等を辞めた理由は、「ライフスタイルの変化」が 32.7%で最も高く、次いで「身体的な負担」が 22.4%、「人間関係の悩み」「給与や労働条件への不満」が 15.4%となっている。



- ⑥ 利用者（家族を含む）からの言動に関してご回答ください。
利用者（家族を含む）からハラスメントと思われる行為を受けたことはありますか。（1つに○）

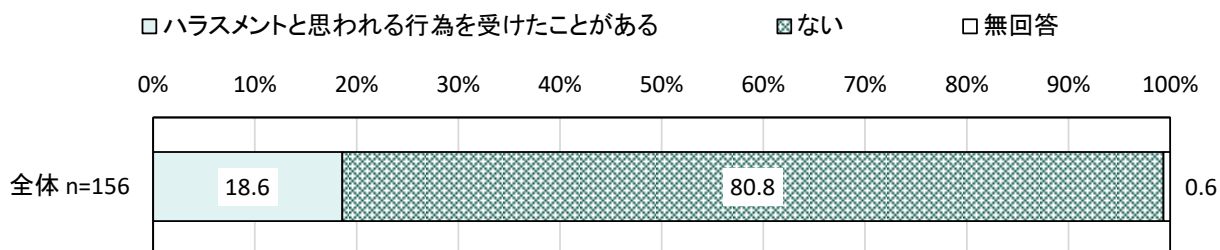
【事業所票（施設・通所系）】問5－12

利用者（家族を含む）からハラスメントと思われる行為を受けたことはあるかは、「ハラスメントと思われる行為を受けたことがある」が19.7%、「ない」が72.4%となっている。



【職員票（訪問系）】問6－4

利用者（家族を含む）からハラスメントと思われる行為を受けたことはあるかは、「ハラスメントと思われる行為を受けたことがある」が18.6%、「ない」が80.8%となっている。

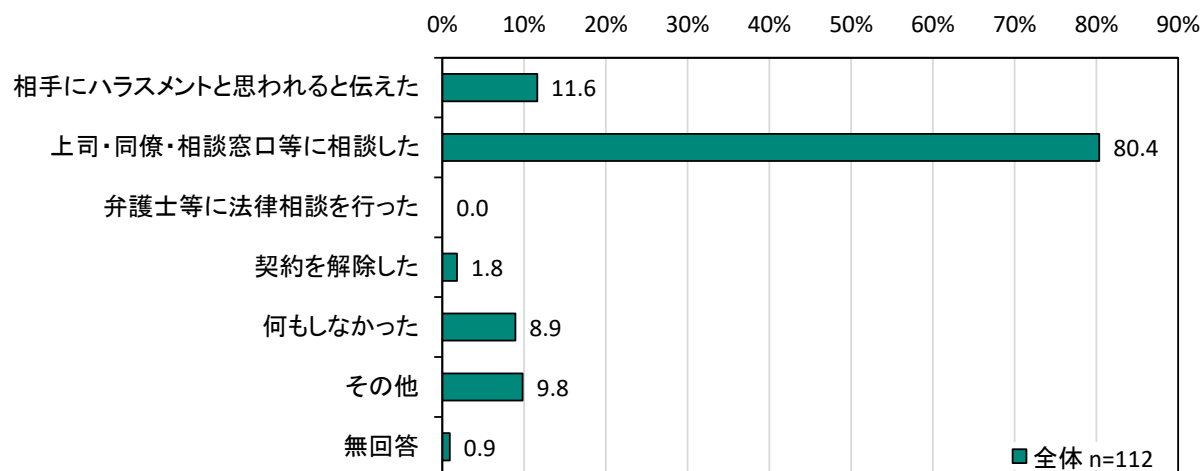


⑥で「ある」と回答した場合にご回答ください。

⑦ あなたは、その時、どのような行動をとりましたか。(複数選択可)

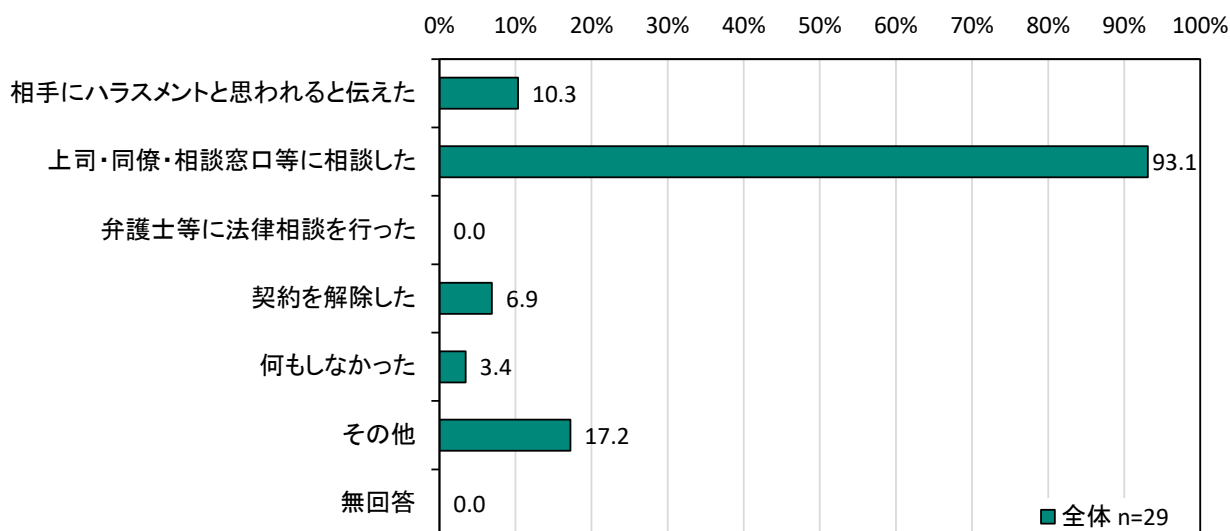
【事業所票（施設・通所系）】問5－13

どのような行動をとるかは、「上司・同僚・相談窓口等に相談した」が80.4%で最も高く、次いで「相手にハラスメントと思われると伝えた」が11.6%、「何もしなかった」が8.9%となっている。



【職員票（訪問系）】問6－5

どのような行動をとるかは、「上司・同僚・相談窓口等に相談した」が93.1%で最も高く、次いで「相手にハラスメントと思われると伝えた」が10.3%、「契約を解除した」が6.9%となっている。



令和 7 年度
鎌倉市高齢者保健福祉計画策定に向けた
介護事業所等アンケート調査
調査結果報告書

発行日 令和 8 年 3 月

発行者 鎌倉市 健康福祉部 介護保険課

住 所 〒248-8686 鎌倉市御成町 18 番 10 号

T E L 0467-61-3950（直通）
